栄区囲碁普及会

創立20周年記念誌

【教室】

【認定会】

【栄こどもとおとなの囲碁大会】

【学校への普及活動】

2021年（令和3年）10月

発刊のごあいさつ

囲碁文化の更なる普及と発展をめざして

栄区囲碁普及会
会長　三箇 豊

今年、２０２１年（令和３年）１０月に栄区囲碁普及会は創立２０周年を迎えました。これまで関係してこられた方々に心から敬意を表します。

２００１年１０月、鶴田 郁夫、関口 正俊、市田 勝一の３氏が発起人となり、３５名のメンバー（会員）とともに囲碁文化の普及を目的とするボランティア団体の栄区囲碁普及会を創立しました。

創立当初は子供への囲碁普及が主な活動で、栄区内の１６校の小学校のはまっ子ふれあいスクールに会員が赴き普及活動をしました。２００４年１０月に最初の囲碁教室として本郷土曜教室を開設しました。その後初段を目指す上達コース５教室と入門・初級コース４教室が順次開設されました。教室の開設に伴い、受講生の昇級の機会となる認定会が開催され、現在では上達コース年４回、入門・初級コース年５回の認定会が開催されています。栄区囲碁普及会の最大イベントである「栄こどもとおとなの囲碁大会」は２００４年７月に第１回大会が開催され、２０１９年の第１５回大会では１４０名を超える参加者があり、盛大な大会となりました。

上記のように囲碁文化が地域に普及し発展したのは、創立以来３００名を超える会員のボランティア精神による献身的な活動、各地区センターの囲碁教室・認定会への碁盤・碁石の無料貸し出し、部屋の提供等をはじめとする公共施設のご協力及び日本棋院横浜栄支部、栄区囲碁連盟、楽碁会の多方面にわたるご協力の賜物であり心より深く感謝申し上げます。

２０２０年３月より２年近くコロナ禍で囲碁教室及び認定会が中止になっています。このコロナ禍での制約の中でコロナ感染対策をした上での有志による自主教室の実施、ネット対局の普及、ネット囲碁大会の開催等の囲碁普及活動に努力してまいりましたが、囲碁普及の停滞は否めない状況です。

コロナ禍明けには先輩会員の崇高なボランティア精神を受け継ぎ子供世代、シニア世代及び現役世代の３世代に対してより一層の普及活動を行い、更なる囲碁文化の普及と発展をめざしたいと考えています。

２０２１年（令和３年）１０月吉日

祝辞

横浜市栄区長
冨士田 学

栄区囲碁普及会が創立20周年という記念すべき年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことに、心からお喜び申し上げます。その積み重ねた足跡に深く敬意を表します。

栄区囲碁普及会の皆様は、囲碁を楽しむ人の裾野を広げるため、日々精力的に工夫を凝らして取り組まれていると伺っております。初心者を対象にした各地区での囲碁教室の開催や、小学校の放課後キッズクラブなどでの囲碁の普及への取組、また、こどもから大人まで、多世代の交流を目指して「栄こどもとおとなの囲碁大会」を毎年開催されるなど、その多様な活動が区民の皆様に広く親しまれることとなっています。

そういった活動の成果により、栄区は全国でも有数の囲碁が活発な地域となっているのだと感じています。

今後とも、皆様とともに、世代間の交流を通して豊かな人間性を育むことで、文化振興を進めるまちづくりを推進して参りたいと存じます。

結びに、この度の20周年を契機に栄区囲碁普及会の更なる御発展と会員皆様の御健勝をお祈り申し上げまして、お祝いのことばといたします。

祝辞

公益財団法人日本棋院
常務理事　宮崎 龍太郎

栄区囲碁普及会が創立20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げますとともに、横浜市栄区での囲碁文化継承にご尽力をいただきましたことに深く感謝いたします。

2001 年に 35 名の方々によるボランティア活動により栄区囲碁普及会が発足されたと伺っておりますが、以来同区内で子どもから大人まで、入門教室の開催など様々な取り組みにより着実に囲碁人口を増加させております。

近年、囲碁人口の減少が続いている中で、栄区においては囲碁に触れる方が増加していると言うことは大変素晴らしいことであります。

栄区の囲碁団体の一つ、日本棋院横浜栄支部においても、2021 年 12 月時点で220 名を超える日本棋院会員がいらっしゃいますが、その数は全国 2 位で、平成23 年より 10 年以上も日本棋院会員数ベスト 10 以内を維持されています。

栄区囲碁普及会が 20 年にわたり一貫して囲碁普及に情熱を持って活動されてきたのは、ひとえに会を立ち上げられた方々の囲碁への愛情と、それを受け継がれていらっしゃる皆様の努力の賜と拝察します。

今後も栄区囲碁普及会を中心に横浜市栄区、横浜市、さらには神奈川県の囲碁普及活動にご尽力いただきますようお願いを申し上げまして祝辞と代えさせていただきます。

この度は誠におめでとうございました。

目次

１．栄区囲碁普及会２０年の歩み　・・・・・　１

２．囲碁普及活動　・・・・・　８
（１）栄区囲碁普及会の囲碁教室・認定会
（２）栄こどもとおとなの囲碁大会
（３）学校への囲碁普及活動
（４）公共施設での囲碁普及活動
（５）対外交流
（６）広報活動
（７）コロナ禍での囲碁普及活動

３．２０周年記念の寄稿文　・・・・・２０

４．栄区囲碁普及会に貢献された方々への感謝　・・・・・３８

【資料編】
１．受講生・初段昇格者・会員の人数　・・・・・　１
２．囲碁教室の開設　・・・・・　２
３．子供への普及活動　・・・・・　３
４．役員一覧　・・・・・　４
５．教室チーフ一覧　・・・・・　６
６．組織図　・・・・・　７
７．栄区囲碁普及会の掲載記事　・・・・・　８

1. 栄区囲碁普及会 20 年の歩み

2001 年 8 月～2003 年 10 月

2001 年　8 月	市田勝一氏（栄区囲碁連盟副会長）、関口正俊氏（囲碁普及指導員）、鶴田郁夫氏（囲碁普及指導員・栄区親子囲碁教室講師）の３氏が発起人となり栄区囲碁普及会の創立を起案
2001 年　9 月	栄区囲碁普及会の創立の主旨に賛同の栄碁クラブ、本郷台棋楽会、栄区囲碁連盟幹事等のメンバーが参加し発足（一般会員　19 名　賛助会員　16 名）
2001 年 10 月	栄区囲碁普及会創立。鶴田郁夫氏初代会長に就任
2001 年 10 月	栄区内小学校を回り、はまっ子スクールへの囲碁普及活動開始
2002 年　7 月	はまっ子スクールへの囲碁普及活動、区内全１６校に展開
2002 年　7 月	本郷台祭り、街頭普及で囲碁のブース設置
2002 年 11 月	上郷高校せせらぎ交流会（現三世代交流会）に参加、現在に至る
2003 年 10 月	関口正俊氏、栄区囲碁普及会第２代会長に就任

創立

鶴田、関口、市田の 3 氏が発起人となり、「栄区の皆さん（特に子供達）に囲碁の面白さを広めよう」を旗印に賛同者 35 名と共に立ち上げた。創立時のメンバーの内、道休俊和、植田米男、中村光良、坂田保夫の4氏は現在も活躍中である。また、当初会員千円、賛助会員 2 千円を徴収し運営費と囲碁用具の調達費にすることによって普及会の維持･拡大に繋げた。

写真：県庁表敬訪問
市田勝一氏、関口正俊氏、加藤正夫日本棋院理事長
岡崎洋神奈川県知事、鶴田郁夫氏（左から）

栄区囲碁普及会会長

鶴田郁夫 初代会長
2001.10～2003.10

関口正俊 第２代会長
2003.10～2009.10

子供への普及活動

会員はパチリコ(6 路盤)を持って栄区内の小学校の放課後教室「はまっ子スクール」へ教えに出かけた。漫画「ヒカルの碁」が大ヒットしており、囲碁熱が非常に高かった時代である。

この活動は「キッズクラブ」と名前の変わった現在も続けられている。現在は 7 路盤、9 路盤が使われている。

パチリコ
鶴田氏考案の 6 路盤

現在使用の 9 路盤

上郷高校「せせらぎ交流会」

2002 年 11 月に始まった上郷高校「せせらぎ交流会」はその後横浜栄高校「三世代交流会」と名を変えたが毎年開催され、普及会も毎年囲碁教室開催に協力し参加している。

毎年 30 余名の参加者があり、近年は日本棋院の協力のもと、プロ棋士の招聘等充実した会となっている。

せせらぎ交流会

小山栄美プロ招聘の
三世代交流会

2004年7月～2007年4月

2004年　7月	第1回栄こどもとおとなの囲碁大会開催（参加者：子供43名、大人26名）
2004年10月	本郷土曜教室開設
2004年10月	第1回級位認定会開催
2005年　4月	本郷土曜教室（上達コース）・本中日曜教室（入門・初級コース）開設
2005年　7月	第5回級位認定会において第1号の初段誕生　栃木康希君（小学5年）
2005年10月	本郷水曜教室(上達コース)、桂台日曜教室（入門・初級コース）開設
2005年10月	本郷楽碁会（囲碁教室修了の段級位者の会）発足
2005年12月	第8回級位認定会において女性初の初段誕生　岸川津弥子さん
2006年　2月	会報「さかえの石音」第1号発行
2006年　4月	豊田水曜教室（上達コース）・豊田日曜教室（入門・初級コース）開設
2006年10月	上郷金曜教室（上達コース）開設
2006年10月	上郷楽碁会発足
2006年11月	栄区文化協会主催の囲碁まつりに参加協力、囲碁教室を開講
2007年　4月	アミー碁（10級以下の囲碁を楽しむ会）発足

土曜教室に続き囲碁教室次々開設

栄区の囲碁愛好家の要望を受け2004年10月に本郷土曜教室を開設。1期6か月でスタートした。栄区親子囲碁教室を引き継いだ本中日曜教室を皮きりに本郷水曜、桂台日曜(後の上郷日曜)教室を開設。翌年、豊田水曜、豊田日曜、上郷金曜教室を開設。

本郷土曜教室

本中日曜教室

教室のOB会・本郷楽碁会発足

囲碁教室修了者の要望を受けて段級位者の会（本郷楽碁会）が発足した。初代会長に高橋利夫氏が就任、その後上郷楽碁会、豊田楽碁会が発足し、約200名の団体に成長した。

又在籍者を含めた囲碁を楽しむ「アミー碁」の会も発足し活躍している。

教室から初段誕生

教室初の初段
栃木康希君

女性初の初段
岸川津弥子さん

その後、16年間で164名の初段が誕生している。

「さかえの石音」創刊

23号まで続いた「栄区囲碁普及会会報」は2006年2月に「さかえの石音」に衣替えされ、第1号が創刊された。第1号では芸術祭『囲碁まつり』で行われたペア碁大会での植田・松井及び岸川・植田ペアの活躍を伝えている。

2007 年 10 月～2015 年 9 月

2007 年 10 月	日本棋院横浜栄支部設立
2008 年　8 月	栄区文化協会主催「なんでも知り隊・アート知り隊囲碁部門」に参加
2008 年 10 月	豊田楽碁会発足
2009 年　4 月	入門・初級コーステキストとして栄区囲碁普及会版「入門テキスト」使用開始
2009 年 10 月	栄区囲碁普及会第３代会長に杉浦次利氏就任
2010 年　2 月	第２回鎌倉子供囲碁大会に栄区の小中学生２６名が参加（現在まで交流続く）
2010 年　4 月	本小日曜教室を上郷地区センターに移設、呼称を上郷日曜教室と改称
2010 年　4 月	上達コーステキストとして栄区囲碁普及会版「上達コーステキスト」使用開始
2011 年　7 月	第７回栄こどもとおとなの囲碁大会開催（鎌倉市の子供囲碁教室との交流開始）
2012 年　2 月	栄公会堂の「はじめての囲碁体験」講座に講師派遣、現在に至る
2014 年　5 月	栄区囲碁普及会のホームページ開設
2015 年　4 月	会員からの会費徴収廃止
2015 年　5 月	栄区囲碁普及会第４代会長に牧野博氏就任
2015 年　9 月	日本棋院横浜栄支部主催の「囲碁フェスタ 2015 さかえ」に共催参加

第 7 回栄こどもとおとなの囲碁大会

対局風景

青井イベント担当より認定状

A+B クラス全員写真

栄区囲碁普及会会長

杉浦次利 第３代会長
2009.10～2015.5

牧野博 第４代会長
2015.5～2018.5

囲碁フェスタ 2015 さかえで活躍

日本棋院横浜栄支部と共催したペア碁大会でインストラクターと組んだ受講生が活躍。

新海洋子プロと佐野嘉男支部長及びペア碁のメンバー

鎌倉子供囲碁大会

2010 年の鎌倉子供囲碁大会に栄区囲碁普及碁会から 26 名の参加を機に鎌倉市の子供囲碁教室との交流が始まり、現在も続いている。鎌倉の木村憲司、近藤奎五両氏及び普及会の杉浦次利、青井茂樹、道休俊和の三氏の尽力は大であった。

対局風景

大会全員写真

対局開始の太鼓の合図

優勝の片山広樹君（左）

上達コーステキスト完成

序盤、中盤、終盤、死活、手筋を 1 冊の本に纏めた素晴らしいテキストが完成し、使用開始した。

ホームページ開設

開設後、毎年機能を強化し閲覧者も増え、アクセス回数は約１０万になっている。

2015年12月～2017年7月

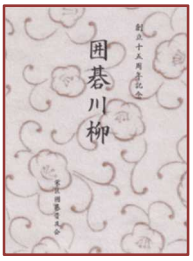
2015年12月	本郷小学校フェスティバルでプロ棋士による囲碁教室（水間俊文プロ招聘）
2016年　3月	栄区囲碁普及会創立15周年記念として囲碁15セットを本郷地区センターに寄贈
2016年　4月	本郷日曜教室・上達コース開講（全8教室となる）
2016年　4月	入門テキスト（9路盤）改定版、3教室統一運用開始
2016年　7月	第12回栄こどもとおとなの囲碁大会、創立15周年記念大会として開催
2016年　8月	3小学校でプロ棋士による囲碁教室開催（飯島小・豊田小・本郷小）
2016年　9月	「囲碁フェスタ2016さかえ」においてプロ棋士2名による囲碁普及会受講生対象に指導碁・特別囲碁講座開催（栄区囲碁普及会・日本棋院横浜栄支部共催）
2016年11月	横浜栄高校 三世代交流会の囲碁教室に小山竜吾プロを招聘
2016年12月	創立15周年記念事業の「囲碁川柳」応募に283句もの投稿があり、句集としてまとめ、会員及び受講生に配布
2017年　4月	保護者の会「いちごの会」発足、情報紙「いちご通信」創刊号発行
2017年　7月	第13回「栄こどもとおとなの囲碁大会」開催。NHKの取材を受ける。蘇耀国プロによる入門教室及び保護者との座談会開催(日本棋院横浜栄支部の協力)

創立15周年記念を祝う

囲碁セット寄贈

本郷地区センターに
碁盤・碁石15セット寄贈

囲碁川柳句集



栄区の囲碁愛好家が
応募した283句の囲
碁川柳句集を発行

栄こどもとおとなの記念囲碁大会開催

Cクラスの対局風景

Cクラス・メダリスト

来賓の方々

保護者会「いちごの会」立上げ

囲碁を学ぶ子供達の保護者とインストラクターを繋ぐ会「いちごの会」が誕生。その後、蘇耀国プロを交えた勉強会が持たれた。また「いちご通信」を情報紙として創刊した。

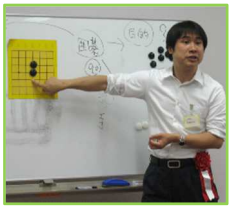
学校の入門囲碁教室にプロ棋士招聘

3小学校と高校の入門囲碁教室にプロ棋士を招聘。

有村比呂司プロの入門講座と子供の対局

第13回栄こどもとおとなの囲碁大会

蘇耀国プロを招聘し、NHKの囲碁普及に対する取材を受け、囲碁フォーカスで放映された。



蘇耀国プロの入門講座

蘇耀国プロの指導碁

A・Bクラスの対局風景

NHKの取材

20017年8月～2019年4月

2017年　8月	本郷、豊田、上郷の3地区センター主催の「夏休みこども囲碁教室」に協力
2017年　9月	栄区囲碁普及会の活動が「栄区街づくり協働推進事業」として認められ、栄区より3年間補助金を受ける
2017年　9月	NHK囲碁番組「囲碁フォーカス」で栄区の囲碁普及活動が放映された
2017年　9月	栄区区長及び地域振興課の職員と意見交換会開催
2017年　9月	日本棋院横浜栄支部創設10周年記念「囲碁フェスタ」開催、又記念誌発行
2017年 12月	日本棋院より囲碁普及活動に対し栄区囲碁普及会に感謝状
2018年　3月	さかえ区民活動センター自主事業「超入門囲碁教室」の運営協力
2018年　5月	栄区囲碁普及会第5代会長に三箇豊氏就任
2018年　6月	鎌倉子供囲碁教室に講師派遣、現在に至る
2018年　6月	各教室でインストラクター研修会を実施
2018年　7月	上達コーステキストに囲碁AIを追加し、改編
2018年 10月	飯島土曜教室（入門・初級コース）を開設。栄区囲碁普及会の9番目の教室
2019年　4月	本郷日曜教室は本郷日曜子供教室に改編

普及会活動・NHK囲碁フォーカスに

栄区囲碁普及会の大会や教室及び会の運営等の囲碁普及活動が全国の囲碁愛好者に紹介された。

この企画実現に小田武史氏の尽力が大であった。

上郷金曜教室の対局と講義の取材

飯島小での囲碁普及活動の取材

日本棋院から感謝状贈呈される

日本棋院横浜栄支部主催の第20回段級位認定会で望月研一プロより牧野会長に栄区囲碁普及会の長年に亘る囲碁普及活動に対し日本棋院から感謝状が贈られた。

感謝状

感謝状の授与

念願の子供教室誕生

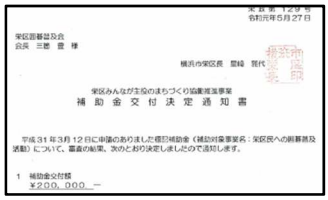
本中教室から分離独立した本郷日曜教室が改編され長年の懸案だった子供教室になった。

子供への指導碁

受講生は全員子供

普及活動が認められ栄区から補助金

普及会の活動が「栄区街づくり協働推進事業」として認められ栄区から3年間補助金を受ける。


補助金交付決定通知書

地区センターで夏休みこども教室

本郷地区センターと普及会の協議により生まれた夏休みこども囲碁教室は3地区センターに広がり、毎年開催されることになった。本郷地区センター長島館長にご協力を頂いたことに感謝。

本郷地区センター

栄区囲碁普及会会長

三箇豊　第5代会長
2018.5 ～

さかえ区民活動センター「超入門囲碁教室」

さかえ区民活動センターの自主事業「入門囲碁講座」開催に協力、地の利もあり参加者が多かった。

入門講座

囲碁指導

20019年4月～2021年11月

2019年　4月	鎌倉婦人子供会館の要請に応じ鎌倉子供囲碁教室を正式に開講
2019年　7月	インストラクター研修会を実施。新任会員24名を含む 合計50名の会員が参加
2019年　7月	本郷、上郷、豊田地区センターの「夏休みこども囲碁教室」実施
2019年　8月	プロ棋士招聘の小学校夏休み囲碁教室が3小学校(本郷、小菅ヶ谷、豊田)で開催
2019年　9月	本郷(5月)、上郷(9月)、豊田(10月)地区センターまつりの囲碁コーナー開催
2019年 11月	本郷日曜子供教室で子供を対象に有段コースを2020年4月から立ち上げ決定
2020年　3月	栄区囲碁普及会の教室は2020年3月、新型コロナウイルスの影響で休講する。以降、対面での栄区囲碁普及会の行事はすべて中止となった。
2020年　3月	入門・初級コースの統一１９路盤テキスト完成
2020年　5月	栄区囲碁普及会総会はEメールおよび郵送による資料送付・賛否の議決実施
2020年 10月	「コロナ禍時代に囲碁を楽しむ」をテーマに「さかえの石音」38号発行
2021年　8月	栄区囲碁普及会、日本棋院横浜栄支部、栄区囲碁連盟で立ち上げた栄区ネット囲碁推進協議会で第１回栄区ネット囲碁大会開催、参加者３８名
2021年 11月	第２回栄区ネット囲碁大会開催、参加者３２名

鎌倉子供囲碁教室開講

鎌倉婦人子供会館の笠本成子、山本美恵子両役員の熱心な要望を受け2018年6月から準備中だった子供囲碁教室を開講した。

子供への囲碁指導

役員の方々

プロ棋士招聘の学校囲碁教室開催

日本棋院の学校囲碁普及補助の協力を得て小学校や高校でのプロ棋士による囲碁講座を開催してきた。近年5年間を見ても、水間俊文、桂篤、有村比呂司、桑原陽子、白石勇一、小山竜吾、小山栄美、黒瀧正憲、河合将史、菅野昌志プロの方々にご協力頂いた。

地区センター祭りの囲碁コーナー

毎年、本郷地区センター5月、上郷地区センター9月、豊田地区センター10月に地区センター祭りが開催される。囲碁コーナーが設置され多くの子供たちが訪れている。

地区センター祭り風景

子供への囲碁指導

インストラクター研修会開催

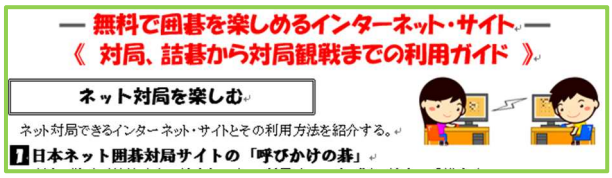
年1回開催しているインストラクター研修会を開催。新任インストラクター24名と担当役員等50名が参加し討議を行った。

会議風景

プロジェクターによる説明

コロナ禍時代に囲碁を楽しむ

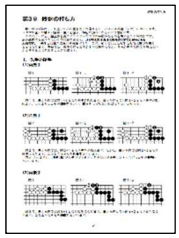
普及会もすべての活動を停止したが、囲碁ファンを元気付ける思いを込め「コロナ禍時代を囲碁で楽しむ」をテーマにネット対局サイト等インターネットの囲碁サイトを紹介した「さかえの石音」３８号を発行。又2021年8月には栄区囲碁推進協議会で第１回栄区ネット囲碁大会を実施した。



「さかえの石音」38号の記事の一部

入門・初級統一19路盤テキスト完成

GOWrite2ソフトを使用して入門・初級コースの統一19路盤テキストを作成し、100冊印刷。



栄区囲碁普及会の一年

4 月	上達コース、入門・初級コース開講式開催
	9 教室で開講
	小学校キッズクラブ出前講座開始
	普及会正副会長会開催（毎月）
5 月	本郷地区センター祭り「囲碁コーナー」
	上達コース認定会開催（年 4 回）
	入門・初級コース認定会開催（年 5 回）
	普及会総会開催(年 1 回)
6 月	日本棋院認定会
	横浜市囲碁級位認定会
7 月	普及会幹事会（奇数月）
	栄こどもとおとなの囲碁大会開催
	3 地区センター夏休み囲碁教室
8 月	小学校キッズクラブ夏休み囲碁教室
	上達コース認定会開催
9 月	上郷地区センターまつり「囲碁コーナー」
	入門・初級コース認定会開催
	囲碁フェスタ
10 月	豊田地区センターまつり「囲碁コーナー」
11 月	秋の芸術祭「囲碁まつり」
	横浜栄高校三世代交流会
	本郷小フェスティバル
	上達コース認定会開催
	入門・初級コース認定会開催
12 月	日本棋院認定会
1 月	入門・初級コース認定会開催
2 月	鎌倉子供囲碁大会
3 月	上達コース認定会開催
	入門・初級コース認定会開催
	上達コース、入門・初級コース修了式開催

総会･幹事会･正副会長会議

年 1 回 5 月に総会が開催されているがこれを補完するために 2 か月に 1 回幹事会を開催している。これ以外にも会の運営のため、毎月 1 回の正副会長会議が開催されている。

教室のチーフ制度

各教室はチーフ、サブチーフ制度を取り入れている。最も長く担当されたチーフは本郷土曜教室を担当された中村光良氏の 12 年である。

中村光良氏

テキスト委員会

2004 年本郷土曜教室開講時は自前の教材を持たなかったが 2008 年テキスト委員会が発足し、上達コース、入門・初級コースに分かれ教室チーフを中心に各コースに相応しいテキストを開発してきた。

ホームページ運営委員会

2014 年以来、ホームページは運営委員会によって維持されてきたが、開設、維持運営に中心となってきたのが谷淵邦彦氏及び三箇豊氏である。

谷淵邦彦氏

三箇豊氏

「さかえの石音」編集委員会

2006 年の創刊以来、編集の中心となり編集部門を引っ張ってきたのは道休俊和、小田武史の両氏である。両氏は普及会の広報部門の要となっている。

道休俊和氏

小田武史氏

2. 囲碁普及活動

(1)栄区囲碁普及会の囲碁教室・認定会

囲碁教室

初めての囲碁教室は、普及会創立から3年後の2004年10月に誕生した本郷土曜教室である。翌2005年4月に、本郷土曜上達コースと本中日曜入門・初級コースが開設され、現在の生徒の棋力に応じた教室体制が確立された。その後、2019 年 4 月に開設された子供だけの本郷日曜子供教室をはじめ、いくつかの教室が設けられ、現在は次の9つの教室がある。

◆入門・初級コースは初心者から11級以下の方が対象で、4つの教室がある。

・本中日曜教室　・豊田日曜教室　・上郷日曜教室　・飯島土曜教室

◆上達コースは10級以上で初段を目指す方が対象で、4つの教室がある。

・本郷水曜教室　・本郷土曜教室　・上郷金曜教室　・豊田水曜教室

◆子供だけのコース・・**本郷日曜子供教室**(18級から有段者まで対象)

教室の内容は基本的に、問題練習・大盤を使用した講義・実戦で構成されている。但し、各教室共生徒により理解してもらう為、色々な工夫をしている。例えば、上郷金曜教室では講義及び生徒同士の対局の棋譜解説にプロジェクターを活用し、より分かりやすい授業を目指している。

テキストは、上達コースは2010年4月にオリジナル版を苦労の末作成し、現在もこのテキストの改訂版を統一テキストとして使用している。

入門・初級コースの統一テキストは次の様になっている。

■19路盤テキスト・・2020年3月完成　■13路盤テキスト・・2022年3月までに作成予定

■9路盤テキスト(入門テキスト)・・2016年4月より使用

なお、毎年4月初めに開講式を、翌年の3月末には修了式を実施している。

熱心な授業中の表情

対局中はついつい"力"が入ります

子供にやさしく指導

老いも若きも「打つ、打つ！」

認定会

第1回の認定会は 2004 年 10 月に実施された。現在は、入門・初級コースの認定会は年5回、上達コースの認定会は年 4 回実施されている。審判員は普及会員が務め、「待った」や「ハガシ」等の違反行為に厳しい目を光らせている。

認定会で好成績を残すと昇級するので、生徒にとっては力が入る様である。昇級規定は数回改訂されている。現在では「3戦全勝」しないと初段にはなれない厳しい規定となっている。初段を獲得した生徒は、教室を卒業する。初段を獲得した大人の多くは、その後普及会に入会し、インストラクターとして活躍している。

記念すべき第 1 号初段獲得者は、栃木康希君(小学 5 年)で、2005 年 7 月に実施された第5回認定会で獲得した。又、2005 年 12 月に実施された第 8 回認定会では、岸川津弥子さんが女性初の初段獲得者となった。現在、累計初段獲得者は 164 名である。

入門・初級コースの認定会では19路盤だけではなく、13 路盤を使用した認定会も実施されている。チビッコ同士の対決は微笑ましいものである。

毎回認定会後には、子供の付き添いで来られた保護者の方も含め、あちこちで悲喜こもごもの表情が見られる。

みんな、頑張って！

待ったはダメだよ

認定会場ではあちこちで火花が飛びます

ハーイ勝ちました！

こうやって白星を獲りました

気合の入った「顔、顔」

対局中の子供の豊かな表情いろいろ

（2）栄こどもとおとなの囲碁大会

2004 年(H16)7 月 17 日、会員待望の**第 1 回**大会が栄区囲碁普及会主催により栄公会堂にて開催された。会員が指導している小学校「はまっこ子スクール」の子供たちと栄親子囲碁教室の親子たちを中心に 69 名（子供 43 名）が参加。初心者のDクラスでは 6 路盤（パチリコ）を使用した。「級位者だけの囲碁大会」として、日本棋院発行の新聞『週刊碁』でも紹介され、話題となった。小学校から 12 校、中学校から 3 校、他に高校、幼稚園からも参加があった。

★鎌倉から 33 人の子供が参加！

（**第 7 回**:2011 年 7 月 18 日/海の日、栄公会堂）

2010 年鎌倉より招待を受け、栄区の教室の生徒たちが鎌倉子供囲碁大会に参加した。そのお礼に鎌倉囲碁倶楽部と西鎌倉教室の生徒を招待したところ多くの参加があり、後援の栄区・尾仲区長も喜ばしい事と挨拶。

市内トップの「元気シニア」を誇る栄区を支えるのは囲碁ファンと。（尾仲区長）

早川さん（右）

神奈川新聞社より記事取材の申し入れがあり、1 級者同士の棋譜が掲載された。

全勝者対決を早川詩乃さん（葉山小 6 年）が須長康夫氏（栄区）を破り、そのまま 4 連勝し、見事初段を獲得し、見学者も拍手。

★金メダル もらったよ！

第9回（2013 年）より会場を、多目的に利用できる”あーすぷらざ”に移し、普及活動をさらに広めるべく今回は、保護者達への特別授業を開き、連碁も楽しんだ。

さらに、成績優秀な子供たちにメダルを授与する事とした。金、銀、銅メダルを胸にした子供たちの喜びようは大変なもので、会場は一層盛り上がった。

杉浦栄区囲碁普及会会長よりメダルが授与され感激！

⇐ 特別入門教室には子供たちと一緒にたくさんの保護者も参加し、熱心に講義を聞いていた。

（講師は道休囲碁普及指導員）

★栄区長賞が授与されました！

囲碁普及会創立 15 周年を記念に開催された**第 12 回記念大会**にて、児玉親子が初段を獲得し、ご子息の舜君（小 3）に栄区長賞が授与された。大会には園児から 85 才のシニア迄 130 名を超える参加者で盛り上がった。区外からも多くの子供たちが参加し、牧野栄区囲碁普及会会長以下、40 名を超すインストラクターが運営を支えた。参加者の内訳は次の通り。

○Aクラス（1-5 級）　：41 名（子供 12 名）
○Bクラス（6-10 級）　：27 名（子供 15 名）
○Cクラス（11-18 級）　：39 名（子供 26 名）
○Dクラス（19-25 級）　：21 名（子供 17 名）
（Dクラスのみ、13 路盤にて対局）

囲碁を始めたい人及び保護者の方々へ「入門教室」を開設したところ、10 数名が参加し、お母さんたちも熱心にインストラクターの説明を聴いていた。

⇐Aクラス

Bクラス⇒

メダリスト

⇐C クラス

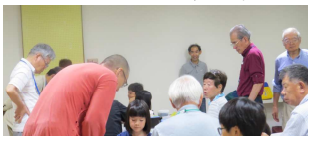
Dクラス⇒

★インストラクターは毎回大忙し！

回を重ねるたびに参加者の枠が広がり**第15回**（2019 年）は、鎌倉から 3 教室の子供たち、区内から西本郷中学校、区外（港南区）からも子供たちが参加し、総勢 145 名が会場にあふれた。

毎回囲碁普及会の幹事と各教室のインストラクターが何度も企画を練り直し、大会当日は三箇会長、青井実行委員長を中心に 40 名以上が頑張っていた。

持ち場で頑張るインストラクター



第１３回大会：NHK TV【囲碁フォーカス】で全国に紹介されました！

栄区囲碁連盟、日本棋院横浜栄支部の招きで度々栄区に来られた日本棋院プロ棋士蘇耀国九段の支援を得て、NHK TV の取材が決まった 2017 年 7 月 30 日（海の日）は、会場の”あーすぷらざ”に栄区囲碁普及会のボランティア 60 数名が集結。朝から3人の TV クルーも収録のためにスタンバイした。

⇐ 表彰式を収録中

蘇耀国プロ

保護者懇談会を開き囲碁普及について活発な意見交換が行われた

入門教室開設と共に保護者懇談会も開き、蘇耀国プロと教室出身で現在アマチュア六段として活躍中の樋口喬之氏を招き、活発な意見交換が行われた。進行役を囲碁普及会・牧野博会長が務め、保護者会立ち上げに奔走した肥塚淳次氏、田中建一氏、道休俊和氏らも同席し、意見を交わした。

⇧

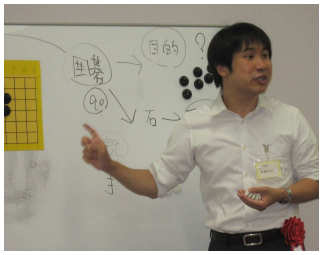
入門教室の子供、保護者にもインタビュー

ゲストで参加された樋口氏より、「囲碁教室で厳しくしつけを受けたマナーはどこに行っても役立ちました」と⇨

保護者の方々からは「集中力、落ち着きが出た」「友達つくりとして有効」「将来の趣味に繋がれば」など多くの意見が出された。

小山竜吾七段と
アシスタントの
ダイアナ・ガーネットさん

囲碁フォーカスの後半のコーナーで「600 以上ある支部で、横浜栄支部が年々会員数を増やし全国第 2 位になった」と紹介され、見終わった小山プロは「こういった方々に囲碁界は支えられていて、有り難い事です！」とコメントされた。



入門教室で熱弁中の
蘇耀国プロ

入門教室、指導碁、保護者懇談会、大盤解説と大忙しの蘇耀国プロは、TV インタビューに答え「色々なイベントに参加したが、こんなにやる気がすごい団体は見かけない、すごいですし、本当に嬉しい」と。

NHK「囲碁フォーカス」は、栄区囲碁普及会の普及活動の取材も行った

上郷金曜教室＜上達コース＞を取材（6/16）

アマ高段者による講義は、約40分。生徒同士の対局を教材に解説。インストラクター20 数名、生徒約 30 名で毎回盛況。

インタビューを受ける
山中チーフ（左）と有本インストラクター

飯島小学校＜キッズクラブ＞を取材（6/15）

4 年生以下の子供たち、表情は明るい

ＮＨＫ 囲碁フォーカスでの放映

放映日　：2017 年 9 月 3 日（日）
チャンネル　：② ＮＨＫ　Ｅテレ
タイトル　：「地域での囲碁普及」
サブタイトル　：100 人を超えるボランティア

(3)学校への囲碁普及活動

小学校への普及活動

創立当初から子供への普及に力を注ぎ、小学校へ積極的にアプローチした結果、2006年時点では14の学校のはまっ子ふれあいスクール、クラブ活動で常時200名の生徒に囲碁指導するまでに至った。対局成績により級位認定状を渡したので子供たちは上の級を目指して頑張った。2019年の状況は下の表の通りで、日本棋院の学校囲碁指導員の資格を持った会員が230名程度の生徒を指導している。

小学校名	対象
豊田	はまっ子
小山台	キッズ
本郷台	キッズ
公田	キッズ
本郷	キッズ
	クラブ活動
飯島	キッズ
	クラブ活動
小菅ヶ谷	キッズ
庄戸	キッズ
西本郷	キッズ
笠間	クラブ活動
日野南	キッズ
	クラブ活動

2014年　笠間小学校クラブ活動に集まった生徒たち

2015年12月　本郷小ふれあいフェスティバル　水間俊文プロ

2017年10月　飯島小キッズクラブ囲碁教室

2018年8月　小山台小夏季キッズクラブ囲碁・将棋の体験教室

プロ棋士による指導

2015年頃からキッズ囲碁教室やはまっ子ふれあいスクールなどに日本棋院の協力を得て、プロ棋士を招き入門指導をお願いしてきた。

年/月	小学校	棋士名
2015/12	本郷	水間七段
2016/8	豊田	有村八段
2016/10	飯島	有村八段
2016/11	本郷	桂　五段
2017/8	豊田	桑原六段
2017/10	飯島	有村八段
2018/8	小山台	黒瀧八段
2018/8	豊田	有村八段
2019/7	本郷	白石七段
2019/8	小菅ヶ谷	菅野六段
2019/9	豊田	河合五段

「段位は当時の段位です」

2017年8月　豊田小はまっ子ふれあいスクール夏休み子供囲碁教室で指導する桑原陽子プロ

2017年10月　飯島小キッズクラブ囲碁教室で対局を見つめる有村比呂司プロ

横浜栄高校（三世代交流会）

栄区内で活躍するシニア世代と生徒、保護者の三世代がスポーツや伝統工芸などを体験して交流を深める事を目的としている高校の行事で、2002年の上郷高校時代の「せせらぎ交流会」から毎年普及会のインストラクターを派遣し囲碁の種目で講義や対局体験の指導を行っている。

せせらぎ交流会で指導するインストラクター（2007 年）

最初に囲碁に関する講義を行います（2015 年）

熱が入るインストラクター「この手が悪いね」（2015 年）

プロ棋士も参加（日本棋院からの派遣）

青井インストラクターから紹介される小山竜吾プロ（2016 年）

生徒の対局体験を指導するインストラクターと奥で見つめる小山栄美プロ（2018 年）

教室に入る前に待合室で待機しているインストラクターの皆さん（2018 年）

西本郷中学校の囲碁クラブ

西本郷中学校の囲碁部は設立しようという話があった時から支援を始め、2001年4月に発足した。当初はパチリコで入門指導などを行い、その後の地道な活動の結果2007年には第4回文部科学大臣杯小中学校団体戦県大会で2位、2008年では中学校囲碁選手権の県大会で優勝し全国大会まで駒を進めるまでに至った。

2007 年当時の囲碁部の皆さん

部活での対局風景（2007 年）

優勝カップや賞状を手にしてニッコリ（2008 年）

(4)公共施設での囲碁普及活動

「さかえ　なんでも知り隊」 アート体験囲碁部門

2008 年栄区役所と文化協会などが中心となって、子供達に伝統文化を体験させる企画「**さかえ なんでも知り隊**」がスタートした。その中で囲碁を体験してもらう『アート知り隊**囲碁体験教室**』が「**囲碁を楽しもう！**」とのキャッチフレーズのもと、栄区囲碁普及会の協力により同年 8 月 25 日に区役所会議室で開催された。『囲碁』隊員は 47 名の小学生で、そのほとんどが囲碁は初めてという入門者。担当した栄区囲碁普及会の指導員は 18 名。

「なんでも知り隊」は 2011 年 8 月 23 日にも開催され、囲碁体験教室は『囲碁』隊員 29 名、普及会インストラクタ 23 名によりスタート。後半の連碁対抗戦は大盛況で、囲碁の楽しさを十分に体験した。

初めて碁石を握った子供たちの笑顔 ➪

地区センター等での普及活動

公共施設である栄区3地区センター企画の「**センターまつり**」で、普及会は「囲碁コーナー」を開設して「**囲碁普及活動に役立てる**」とともに、センター自主事業の「夏休み子ども囲碁教室」で入門囲碁講座を担当し、大勢の子供たちに囲碁の楽しさを伝えた。

入門囲碁講座はさかえ区民活動センターでも開設され、また、栄図書館開館 30 周年記念行事としても開催された。

1）地区センターまつり【囲碁コーナー】

本郷地区センター

豊田地区センター

上郷地区センター

2）地区センター　【夏休み囲碁教室】

本郷地区センター

豊田地区センター

上郷地区センター

3）さかえ区民活動センター【超入門囲碁講座】

4）栄図書館開館 30 周年記念【入門囲碁講座】

(5)対外交流

鎌倉子供囲碁大会への参加！

2009 年に鎌倉市の後援を受け開催された**第 1 回鎌倉子供囲碁大会**は、その様子が新聞などでも大きく報道され、 同年鈴木省吾・日本棋院囲碁普及指導員から同じく日本棋院囲碁普及指導員である道休俊和氏（栄区囲碁普及会会員）に栄区の子供たちの参加要請があった。 第 2 回大会には栄区から 26 名の子供たちが参加した。

なお、これを機に大会実行委員長・近藤奎五氏（西鎌倉子供囲碁教室）、大会審判長・木村憲司氏（鎌倉囲碁倶楽部）との交流を深め、「栄こどもとおとなの囲碁大会」へ鎌倉市の子供たちも参加することになった。

第 3 回大会からは名刹での開催となり、円覚寺、妙本寺、光明寺、 そして 2020 年は遊行寺で第 12 回大会が開催された。コロナ禍のため第 13 回大会は開かれなかった。

第 2 回大会（2010 年）

鎌倉囲碁倶楽部を主会場に早見芸術学園の 2 会場で、A リーグ、B リーグ、C リーグの 3 クラスに分かれてのハンデ戦で実施され、A リーグでは高段でハンデの厳しさのあった小学 4 年の安藤俊介さんが優勝、C リーグでは小学 5 年の森川智広さんが準優勝。対外試合が初めての子供たちも5分以上の星をあげ栄区のレベルの高さをアピールできた。

第 3 回大会（2011 年）

第 3 回大会は鎌倉を代表する円覚寺で開催された。このためか人気急上昇、保護者を含め 270 名ほどが集まった。

由緒あるお寺での対局、同寺朝比奈教学部長の「禅寺で囲碁を打つことは、座禅と同じ。集中力を養ってください」との話など、貴重な体験が今も生きている事であろう。円覚寺では第 6 回まで開催された。

全国にも例を見ない由緒あるお寺での囲碁大会

第 11 回大会（2019 年）

第7回・第8回の妙本寺での大会を経て、第 9 回から第11回大会は光明寺で開催され、有段者から初心者まで幅広い棋力の少年少女が囲碁を楽しんだ。栄区からは囲碁普及会生徒 20 名を含む 29 名が参加。本郷日曜教室の石川遥菜さんが B リーグで5戦全勝・優勝、見事に初段を獲得。 また、C リーグで森隆司さんが準優勝するなど、全員が2勝以上の快挙。

優勝した石川遥菜さん
（左から2人目）

第 12 回大会（2020 年）

第12回大会は藤沢市の遊行寺で、新型コロナウイルスの影響を懸念する中、例年と変わらない参加数で開催され、栄区からは5名の方が敢闘賞を受賞した。

C リーグで敢闘賞受賞の宮地陽哉さん（小学 2 年・左 14 級）は、**2021 年 7 月の少年少女囲碁大会神奈川県大会で 2 位。**➪

B、C リーグ出場の子供たち

その他の交流

栄公会堂囲碁教室（当初は「はじめての囲碁講座」として開設）及び鎌倉子供囲碁教室へ講師を派遣するとともに、普及会認定会への参加を認めている。 鎌倉子供囲碁教室➪

（6）広報活動

広報活動にはさかえの石音、いちご通信の出版活動と2014年に開設されたホームページの運営がある。また創立15周年記念として囲碁川柳句集を発行した。その他、年1回受講生募集チラシを作成し、地区センター等の公共施設に掲示依頼している。タウン・ニュースへの受講生募集記事などの掲載依頼も行っている。

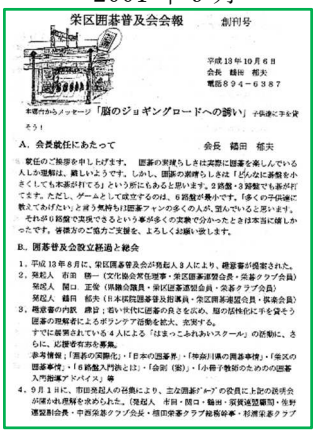
出版活動

さかえの石音

・**体裁**　　A4判　4 頁
・**発行回数**　年3～4回
・**発行部数**　700部

栄区囲碁普及会創立時（２００１年１０月）から、小学校や親子教室での普及活動を伝える『栄区囲碁普及会・会報』を発行。２００６年２月、これまでの編集方針・体裁を一新、区内在住の囲碁ファンを対象とする囲碁情報紙に生まれ変わった。２０１０年第１０号からは念願のカラー印刷化。現在は栄区囲碁連盟・日本棋院横浜栄支部・楽碁会の協力を仰ぎ、囲碁大会や各団体の活動を伝える栄区のニュースレーダーになっている。

栄区囲碁普及会・会報
2001 年 9 月


栄区囲碁普及会会報　創刊号

第 1 号　2006 年 2 月
モノクロ版でスタート

さかえの石音

第 10 号　2010 年 6 月
念願の全面カラー化

さかえの石音
8クラスは大正生まれが上位を独占！
シニア大集合！いたるところで熱い戦いが展開された

第 26 号　2016 年 2 月
創立 15 周年記念特集

さかえの石音
創立 15 周年を迎える栄区囲碁普及会

創立 15 周年記念号
2016 年 12 月 1 日

さかえの石音

第 33 号　2018 年 5 月
第 20 期がスタート

さかえの石音
第 20 期は、170 名の生徒でスタート！

第 36 号　2019 年 8 月
15回を迎えた「栄こどもとおとなの囲碁大会」

さかえの石音
世代を超えて熱戦！ 日ごろの研鑽の結果は？

第 38 号　2020 年 11 月
コロナ禍で囲碁を楽しむ

さかえの石音
コロナ禍の時代に囲碁を楽しむ！

◆編集に携わった方々

植田米男、道休俊和、臼井道雄、酒井　巧、杉浦次利、山田伊佐男
立岡　章、橋本　侃、藤井　誠、日野祐一、田中克彦、牧野　博
山中正巳、小田武史、佐藤中勇、興野富男、谷淵邦彦、北原文男
宮川　誠、三浦武久、中澤國夫、三箇　豊、渡辺　紘
（順不同・敬称略）

第 38 号では、コロナ禍で対局が難しい中、様々なサイトを紹介
・日本ネット囲碁対局サイトの「呼びかけの碁」
・日本棋院ネット対局サイトの「幽玄の間」
・中国ネット対局サイトの「野狐囲碁」　　など

囲碁を学ぶ子と保護者におくる情報紙

いちご通信

2017年4月、子供への囲碁普及は保護者の碁に対する理解と賛同が欠かせないとの考えで『いちごの会』(栄区囲碁普及会教室で学ぶ子供達の保護者の会)を設立、同時に囲碁の魅力や効用を盛り込んだ『いちご通信』を発刊。広報活動にも使用。A4判ペラ。【編集担当　牧野　博・道休俊和】

創刊号　2017年7月

第2号　2018年3月

第3号　2018年7月

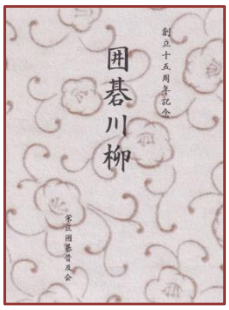
第4号　2019年1月

創立15周年記念「囲碁川柳」の発行

２０１６年９月　記念行事の一環として、普及会会員及び受講生など関係者から囲碁川柳の投稿を仰ぎ、句集を制作、配布した。２８３句の応募があり、秀逸作品１２句、佳作作品２８句、ジュニア作品２句が表彰された。「予想外に沢山の応募があり、関係者一同大いに感激し、選外となった句の中にも川柳の心を感じさせる作品が少なくなかった。」
（中村光良選考委員長）

なお、２０１７年１０月２３日～１１月２５日、さかえ区民活動センター「ぷらっと栄」でも展示され、足を止めて微笑む人が多かった。

「ぷらっと栄」に展示された囲碁川柳



◆選考委員の方々

青井茂樹、　飯田吾朗
今岡哲也、　植田米男
小田武史、　岸川津弥子
佐藤中勇、　坂田保夫
三箇　豊、　杉田光弘
田中建一、　中澤國夫
中西和豊、　中村光良
牧野　博、　三浦武久
宮川　誠、　森安恒夫
山中正巳、　渡辺　紘
（五十音順・敬称略）

●秀逸作品（十二句）

勝碁だけ碁敵称える小者ぶり　青井　茂樹
盆近し孫を待ちつつ石みがく　鉾碕　宗夫
週四日囲碁に通えば妻笑顔　岡田　克司
ママとぼくケンカしながら囲碁を打つ　松浦　一
モノクロのアートを描く盤の上　松浦　一
女房には勝った碁のみを報告し　堀田　昭司
対局が口で始まるヘボ仲間　中村　光良
長考に不思議顔するこども棋士　中村　光良
あと一歩その「あと一歩」で五年過ぎ　三浦　榮一
楽しみは酒囲碁散歩の粗大ゴミ　中西　和豊
十五年弥栄(いやさか)を期す普及会　牧野　貞夫
あっ負けた盤の向こうに小さな手　国吉　秀明

●ジュニア賞（二句）

つめごときなやみまくって答えあり　大内　颯夏
ともだちとうつしゅんかんをたのしみに　伊勢本正啓

●佳作作品（二十八句中三句）

ボケ防止始めた囲碁が生きがいに　佐々木由幸
教え子に待ったは駄目よといさめられ　牧野　博
おじいちゃんそこは筋違いと孫が云う　大場　正幸

ホームページ

ホームページは 2014 年に会員の谷淵邦彦、三箇豊の両氏が開設、運用の両面に尽力され、普及会の活動状況等囲碁に関する幅広い情報を確認できる媒体になっている。開設以来のアクセス回数は10万近くになっていて、2019年のホームページからの受講申し込みは20名を超えている。

ホームページの構成は下記のとおりである。

・ニュース・イベント　　:トップページで、他に栄区囲碁カレンダーも掲載
・囲碁教室のご案内　　:教室の場所、開催曜日、時間、受講料等を一覧で掲載
・教室風景　　:上達コース5教室と入門・初級コース4教室の教室風景写真を掲載
・教室便り　　:教室スケジュール、囲碁マナー、昇段・昇級規定、詰碁・手筋問題、囲碁の歴史と文化等を掲載
・受講の申込み・問合せ　:募集ポスター、囲碁教室申込みフォーム、問合わせフォームを掲載
・子ども普及　　:小学校11校への囲碁普及活動を一覧表で掲載
・さかえの石音　　:さかえの石音1号～38号、いちご通信 1 号～4号を掲載
・栄区囲碁普及会の紹介 :会長メッセージと会則、組織図、歴史等を掲載
・リンク　　:各種囲碁サイトにアクセスできるリンクを掲載

ニュース・イベント

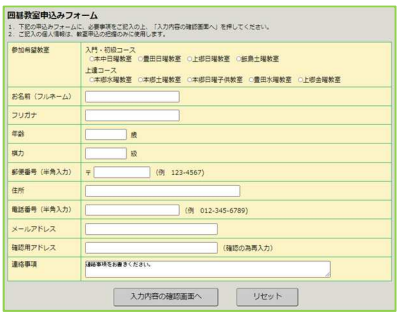
囲碁教室のご案内

入門・初級教室風景

上達教室風景

教室便り

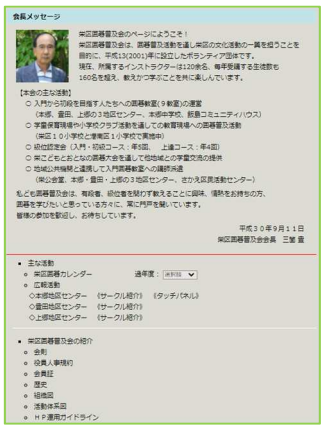
囲碁教室申込みフォーム



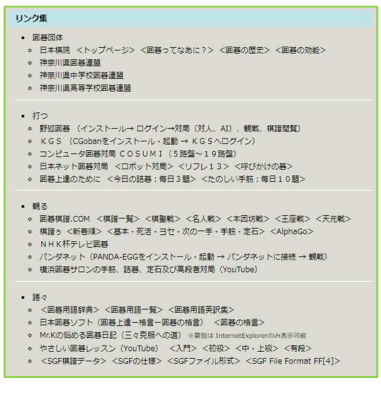
子ども普及

さかえの石音

栄区囲碁普及会の紹介



リンク



(7)コロナ禍での囲碁普及活動

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため2020年3月から2021年10月現在まで、栄区囲碁普及会は、囲碁教室、認定会及び学校・公共施設での体験囲碁教室などの囲碁普及活動を中止せざるを得なくなっている。

このコロナ禍の状況において、実施している囲碁普及活動を紹介する。

コロナ対策をして自主教室を開く

地区センター等の碁石貸出し禁止、人数制限の制約の中で、各教室の有志が下記のコロナ対策を実施して、自主教室を開いて囲碁普及活動を維持している。

・検温の実施(地区センター入り口で実施)
・マスクの着用、手のアルコール消毒
・ソーシャルディスタンスを取るため2つ並べた机に碁盤を置き、対局者間に透明シールドを置く。又はフェイスシールドを着用する。
・インストラクターが碁石を持ってくる

◆自主教室の対局風景

上郷日曜自主教室

上郷金曜自主教室

本郷水曜・土曜自主教室

飯島土曜自主教室

コロナ禍における新昇級制度の制定

コロナ禍で認定会が開催されない中で受講生が昇級する機会を設けて、昇級することによって囲碁への意欲を継続してもらうために、栄区囲碁普及会は以下の昇級制度をコロナ禍で教室が休講中の暫定措置として制定した。

・日本棋院の紙上認定段級位を承認する
・栄区ネット囲碁大会で3勝及び2勝1敗の成績優秀者は申請級より1級上を認定する
・入門・初級コースは教室チーフの裁量により 昇級を認める

【昇級した受講生の声】

コロナ禍の為、教室休講、対人対局もままならぬ状況の中でネット囲碁大会を開催していただいた栄区ネット囲碁推進協議会に感謝しています。

ありがとうございました。

インターネットによる普及活動

インターネットによるネット対局、詰碁・手筋問題及びネット対局観戦の利用ガイドを掲載した「さかえの石音」38号を2020年11月に発行した。又、栄区囲碁普及会、日本棋院横浜栄支部及び栄区囲碁連盟の有志が栄区ネット囲碁推進協議会を結成し栄区ネット囲碁大会を開催した。

◆呼びかけの碁によるネット対局

栄区囲碁普及会の教室毎にネット対局グループを作り、教室の受講生及びインストラクターが「呼びかけの碁」のネット対局を楽しんでいる。

ネット対局中

上下反転表示

◆詰碁・手筋問題サイトの紹介

「今日の詰碁3題」、「楽しい手筋10題」のサイト等を受講生に紹介した。

◆栄区ネット囲碁大会

2021年8月22日(日)38名の参加を得て第1回栄区ネット囲碁大会を開催した。

Aクラス(三段以上)、Bクラス(二段、初段)、Cクラス(1級～10級)の3クラスに分け、3回戦のハンディ戦。3連勝の成績優秀者は下記の通り。

Aクラス:瀧川五段
Bクラス:佐野二段、田辺1級(人数でBクラス参加)
Cクラス:形谷4級、島井10級

大会事務局画面(4部屋の内の1部屋の画面)

ネット囲碁大会のためのソフトは左記のネット囲碁学園(IGC)ソフトを使用した。

3. 20周年記念の寄稿文

囲碁をしてよかった事

北原　文男（本郷土曜教室チーフ）

囲碁を始めたのは、未だ会社勤めをしていた20代前半で、会社の昼休み時間に先輩が打っているのを見て興味をもち、何とか並べるだけなら出来るようになりました。しかしその後は仕事の関係もあり60 才半ばに至るまで碁石を触った事もなかったのですが、自治会のボランティア活動で知り合った、坂田さんからお話しを聞き、老後を楽しむ為にと「栄区囲碁普及会の本郷土曜教室」に入って勉強をさせて頂きました。結果、初段の認定を頂き、その時に「恩返し」をして下さいとのことで、土曜教室のインストラクターに就任させられ、又　右も左も判らないのに「楽碁会本郷部会」の代表も引き受けさせられました。

始めは「この組織は何なんだ！」と言う思いが大きかったのですが、今思うと、囲碁を習ったおかげで、全く知らなかった方たちと囲碁を楽しむのは勿論、酒を飲み、歌を歌い、時局を語り合いと楽しい老後のひと時を持つ事が出来感謝しております。社会との繋がりを取り持ってくれたのが囲碁です。

感謝の気持ち

山中　正巳（栄区囲碁普及会元副会長）

創立20周年お目出とうございます。私が栄区囲碁普及会を知ったのは、2006年上郷金曜教室が開講と同時に受講生になったときです。教室は大変楽しく、毎週金曜日が待ち遠しい気持ちで一杯でした。それ以来今日まで、普及会とは15年間何らかの形で携ってきました。

又、教室と同時に1年間でしたがアドヴァンスト・スクールにも通い、卒業当日に肥塚先生、計倉、栗林両先生、受講生全員がカラオケスナックで大いに飲み歌った時の光景が今も目に浮かびます。肥塚先生にはその後もいろいろご教授いただきました。先般、ご逝去の報を受け心よりご冥福をお祈り申し上げます。

いままで、囲碁を通して多くの方々と知り合いになれたことを大変嬉しく思い、又、感謝しております。最後に、栄区囲碁普及会の益々の発展を祈っております。

囲碁の効用いろいろ

横山　一男（本郷土曜教室受講生）

古希を迎える頃にカミさんから、最近「灯り消し忘れているよ」「・・・忘れているよ」等々聞きたくない言葉でした。ボケ予防には注意喚起を繰り返して刺激を与えるのが良いのよと言われました。その頃、普及会主催の「初心者囲碁教室」の生徒募集を知りました。囲碁の知識は皆無なので躊躇していると、カミさんから「行ってみたら、暇なのだから！」がキッカケになり、思い切って門を叩きました。

其れから間もなく某有名棋士の記事を目にしました。碁は右脳という、感覚を司る脳を使う部分が大きい。記憶力は、二十歳を過ぎると徐々に衰えますが、七十歳を過ぎても記憶力に頼る要素が少なくてすむので学習をすれば必ず右脳的能力は伸びるとあります。他には、右脳を使う碁は脳の老化防止になり、脳梗塞などのリハビリにも大いに役立つそうです。他にも囲碁の効能は枚挙にいとまがないそうです。遥か遠い夢の実現に向けて今日も指先に挟んだモノトーンの石を「パチン」と響かせました。

鳥の眼・虫の眼・魚の眼

宮川　誠（庶務・渉外副会長）

この言葉は、特に囲碁用語という訳ではありません。普段生活する中で物事の見方についての言葉です。即ち「単眼で見るのではなく、複眼で見よ」ということです。

この言葉は囲碁を打つ時にも通用すると思います。つまり「鳥の眼」は大局観も持って打ちなさいという事、詰碁関係や部分の定石は「虫の眼」で見て考えなさいという事、又一局の流れの中でどの方向から石を持って行くのか時々考えるのは「魚の眼」でということです。

なかなか出来ないことではありますが、「鳥の眼・虫の眼・魚の眼」を意識して囲碁を打つと新たな局面が見えてくるかも知れません。

栄区囲碁普及会 20 周年に寄せて

楠原　純照（本郷土曜教室受講生）

当会 20 周年に際し、会の一隅を汚している事が少々心嬉しい心境ではある。

子供の頃、時折大人のやっている「碁」なるものの不思議で何を競っているのか全く不明なゲームに興味を持ち、いずれ挑戦してみようと密かに目論んでいた。

以前長野にいた時、現地の好々爺の知り合いから「碁」のイロハを教わり、ルールは手に入れたが、石の置き方はぼんくら頭には理解を越えた。

只、仕事を止めた好機にちゃんとやって見ようと大志に目覚め、良い人ばかりの当会にお世話をかけている。入会 1 年で順調に実力を伸ばしていた？ので、周りには、言いたくて、言いたくて仕方がないが如何せん悔しいかな 3 級の現実では人様に、「碁」をやっているとはとても言いだせない。初段にでもなる事が出来れば ”石の並べ方位は知っている”とでも宣伝しようかと思っている。

何はともあれ、世話役の方々や関係者の皆さんに感謝し、この会の更なる盛会を願う思いを深くしている。

私が囲碁普及活動を始めたきっかけ

佐野　武彦（栄区囲碁普及会幹事）

私は、現在日野南小学校キッズクラブの囲碁指導のチーフということになっている。しかし、実際には2020年3月以降、全国的にコロナ感染者が増加してきたため、長期間中止されたままになっている。1日も早く再開することを期待している。

ここでは、キッズクラブの囲碁指導にタッチし始めたきっかけについて記してみたいと思う。2014年9月、当時は「はまっ子」と呼ばれていたが、その集会室でスタートした。スタートに当たっては児童に対する囲碁普及活動が盛んだった栄区囲碁普及会の支援が大きなきっかけとなった。特に同会の道休俊和さんは親身になってノウハウを伝授してくださり、「はまっ子」の責任者にも面会して児童への囲碁普及活動の重要性を説いてくださった。当時、私は普及活動のメンバーの一人にすぎなかったが、道休さんの熱意には感心すると同時に自分も活動に参加しようという気になり、現在に至っている。

【普及会に魅せられて】

青井　茂樹（日本棋院横浜栄支部支部長）

振り返るに、軽い気持ちで金曜教室の門をたたいたのが、普及会という名の魔界への一歩だった。認定会に臨んでは二勝一敗続きの挫折を味わい、初段まで一年を要し、その間寝る間を惜しんで教本にかじりつき、タイムカプセルに乗り受験時に戻ったかと錯覚するほど囲碁に憑かれたのを昨日のように思い浮かぶ。

受講生在籍中にもかかわらず、庄戸小の囲碁指導に派遣され、初段取得後は直ちに幹事に、すかさずその一年後には副会長にとの甘言に乗せられ、第 7 回「栄こどもとおとなの囲碁大会」実行委員長に任じられた次第。このたたみかける圧力に脅かされると共に、在職中、人事考課の数字を打ち込むだけでやり過ごした PC 音痴のアナログ人間の無作為な登用には見識を疑わざるを得ないと独りごとだが･･･。しかしこの大会が怠惰な人間の人生観を変えたのである。

PC 教室に通い、毎夏二か月ほとんどこれだけに没頭すること五年、何とか無難な差配が可能となり、会場を見やると、幼子の打ち下ろす石の力強さ・目の輝き、高齢者が子供らの気に触れ、まさに至福の時を迎えている様を見て取れ、4、5 歳から 90 歳まで世代を超えた交流は他所ではあり得ず、自身齢を重ねるごとにこのイベントに携われる喜びを覚え、社会の一員として高度な幸福を普及会からの報酬として与えられている。

奈良時代の碁盤・碁石

囲碁を楽しんでいます

石川　求（上郷金曜教室元チーフ）

昭和61年に日本棋院から五段の免状をいただいた頃はその実力に恥じないように、参考書を読んで勉強しました。最近は囲碁の実践から遠ざかっていますが、強くなろうという気はなく、もっぱらパソコンでの対局を楽しんでいます。

栄区囲碁普及会との出会い

高野　健（豊田水曜教室インストラクター）

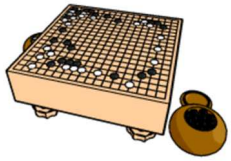
私が（金沢区から）栄区に引っ越してきたのは、今から 5 年前です。3 年ぐらい前に、偶然豊田地区センターの 2 階に上がり込んだ時がありました。その時、一番奥の部屋のﾄﾞｱから中を見ますと、囲碁大盤の前で 20 人ぐらいの人たちが、わいわいやっているのが見えました。無断で中に入り込み、空いている椅子に勝手に座ってしばらく見ていましたが、ｳｽﾞｳｽﾞしてきて、ついに沈黙を破り、ｺﾒﾝﾄを差し挟んだのが、栄区囲碁普及会（豊田水曜教室）との最初の出会いでした。その後、豊田水曜教室以外にも多くの教室（飯島ｺﾐｭﾆﾃｨｰ、本郷地区ｾﾝﾀｰ、上郷地区ｾﾝﾀｰ等）がある事が判ってきました。実態がわかるにつれて、栄区は日本一の囲碁ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｰの地域だということが実感出来てきました。ぜひこのすばらしい普及活動を持続して欲しいと願っております。

棋力向上の為、何が良いかを、一つだけ申し上げますと、対局中に棋譜を取る事をお勧めします。そして、出来れば、高段者の方に見てもらい、解説してもらい、それを記録しておき、それを後に繰り返し見直して、同じ間違いをしないように、脳に染みこませることが最善ではないかと思っております。

さて最後に、今後囲碁がどうなっていくか、私の見解（妄想？）を述べてみたいと思います。アルファ碁というソフトが世界ナンバーワンの人間に勝ったのが、今から 5 年前でした。負けたのは、当時世界一だった韓国のイセドル九段でした。1 勝 4 敗でした。あまりのショックで、彼は涙を流し、プロ棋士をやめたそうです。その時私は、もはやプロ棋士は存在出来なくなるのではないか？と思いました。しかし、5 年経った現在、その兆候が現れている感じがしません。おそらくその理由は、現在最強のソフトも、人間に教えるのが不得手だからか？という気がします。たとえば、人間が、ソフトと対局したあと、どこが悪かったか？と質問した場合、ソフトが答えるのは、この手が悪かった。この手の勝率は 0.2538%、最高の手はここで、勝率 86.59%である。と言われたら、人間はどう思うでしょうか？

それよりも「この石を逃げたのが悪かった」。なぜかといえば、「この石を逃げた為、白に追われ、結果として上方の黒の金科玉条の雄大な黒模様が消えてしまったから」という回答であれば、人間は、ああなるほどなあ‥と深く納得するに違いありません。

さて、このようなソフトが出来てくるのはあと 50 年後でしょうか？　楽しみなような‥恐ろしいような･･･。



私にとって囲碁とはアナログ人間

三浦　武久（栄区囲碁普及会幹事）

少し前、大竹英雄という人がいた。石の形を重視する棋士で大竹美学と呼ばれた。団子石や一線を渡るコジキ渡りなど死んでも打たない主義だ。武宮正樹という棋士は隅より中央を重視しそこに大きな地を築き、雄大で実に気持ちが良いなどと言って宇宙流と呼ばれた。趙治勲という棋士はことある毎に頭を掻きむしりぼやいていた。

最近若手が台頭して来ている。この人達の勉強相手はコンピューター（AI）だ。まだ先だろうといわれた囲碁ソフトに人間は勝てなくなった。AI は自分の打つ場面で確率的に半目でも地が多く取れそう（より最善）な手だけを考える。そこには美学も無ければ、宇宙流も無いし、ぼやきも無い。やたら石をくっ付けたり、三々など隅が大好きだ。

所で我が碁はどうであろうか。まず相手が強いか弱いかによって打ち方が変わる。一目でも多く勝ちたいという欲、悪い手を取り返そうとする意地、良い手を打たれて無理に反発するなど感情に負けて、より最悪の手を打つ。修行が足りないといわれればそれまでであるが、バカボンのセリフではないが「これでいいのだ」。人間だ。

・・・囲碁講義ツール雑感・・・

佐藤　中勇（総務副会長）

2008年9月20日に第8期生として修了、普及会に入会し、上郷金曜教室のインストラクターの一員となり14年になります。当時、学期の区切りが6か月で修了後、10月の新学期から「死活問題」の講義をするように横地正厚チーフに指示され焦りました。大盤解説ボードを使っての講義は、メモを離せない新米の講師の私にとっては難しく、模造紙に設問図を表示したものを事前に準備し、当日それをボードに貼り、その上に碁石を置くやり方で汗だくになって説明しました。

現在は、「囲碁テキスト」「ワンポイントレッスン」等の教材をプロジェクターで効率よく解説できる時代になりました。現在、受講生同士の対局棋譜を教材として活用していますが、以前は棋譜記録用紙に手書きで収録したものを大盤解説ボードに復元し解説していましたが、2012年10月からは日本棋院の囲碁ソフト「Kiin-Editor」を利用し、受講生同士等の対局棋譜を収録し、翌週に高段者の方に解説頂いて、質疑応答する時間を設けて、9年になります。解説者は初代が石川求さん、現在は大森泰史さん、自主教室では三箇豊さん、青井茂樹さんが代行されています。5～10年後には AI ロボットの“キンヨウ君？”が講義をしているかもしれません。

私の囲碁勉強方法

権正　茂（豊田水曜教室チーフ）

「名人に定石なし」定石を熟知してあえて使わず、打ちたい所に打つ。私は定石を使っても、うろ覚えで結果を残せません。

守、破、離、(しゅ、は、り)という言葉の通り、
守は基本を忠実に習得する。
破は基本を破り試行錯誤する。
離は基本にとらわれない自分自身の型を作り出す。

名人は離、私は守の段階です。死活は易しい問題集を反復練習するとパズルを解く様に楽しくなります。新聞の棋譜並べも慣れてくると楽しめます。但し、自己満足の部分が多く実戦にはなかなか結び付きません。定石は覚えるのが難しいので、私はやっておりません。

以上、囲碁の勉強は楽しくやるのに限ります。

本郷水曜教室への参加経緯等

杉田　光弘（本郷水曜教室前チーフ）

1. 栄区囲碁普及会で囲碁上達コースが行われていることを知り入室を申し込みました。入会は第 7 期（平成 19 年 10 月開講）で仮 3 級に認定されました。第 8 期（平成 20 年 4 月開講）に 1 級に昇格し、第9期（平成 20 年 10 月開講）に初段に昇格しました。翌期（第 21 期）からインストラクターとして水曜教室に参加し現在（令和 3 年）に至っています。
2. 教室で対面指導するときに次の点に注意すれば良いと思う。インストラクターは基本的な手を打つように心がける。また、よく使う定石はすぐ打てるように繰り返し覚えるようにする。教室での対局指導だけでは時間が少ないので、他の時間を見つけて対局するようにすれば上達が早いと思う。

私の囲碁との出会い

川崎　和幸（栄区囲碁普及会元幹事）

20周年おめでとうございます。

私が、栄区囲碁普及会と出会ったのは、定年を迎えた年でした。これといった趣味を持ってなかった私に、妻が栄区の広報紙を出し「栄区に囲碁教室があるよ」と！これまでは、NHKのプロ棋士の囲碁を時々見ていたのを妻が知っていて、勧めてくれたと思っています。

早速、当時世話役をしていた植田さんに電話をして豊田日曜教室を紹介され入校しました。それから2年後、無事卒業出来ました。卒業後は楽碁会に入会し、会員の方々と楽しく碁を打ち、多くの友人・知人が出来横の広がりが出来ました。

又、豊田日曜教室のインストラクターの要請があり、私を育ててくれた恩返しの意味もあり受けることにしました。いろいろな方々と出会い、教えることの難しさも分かり、いまだに勉強ばかりです。新型コロナの為、囲碁教室も休講のままですが、今後も栄区囲碁普及会の益々のご発展を祈念します。

普及会と私の囲碁歴

伊藤　正彦（栄区囲碁普及会元幹事）

私が普及会に入ったのは土曜教室が開講した時だから、2004 年 4 月だと思う。会社の先輩である久保さんに誘われたもので、当時は関口会長で土曜教室の主任は中村さんだった。

当初は市販のテキストを使用していたが、自前のテキストをということになり、テキスト委員に指名され、自前のテキストを作製した。2005 年頃の話である。杉浦さんが会長になってから、さらに充実をとの話になり、杉浦会長のもとで分担して執筆し、現在使われている物が出来上がった。問題集を充実させ、独学でも理解できるようになったと思う。

当初は 1 期半年で、2 年で初段にして卒業させる計画で半年 3 回の認定会があった。最初のうちの受講生のレベルは高かったが、強い人が初段になって卒業し、次第に全体のレベルの低下が見られるようになった。そこで 1 期 1 年として学習期間を増やし、認定会も年 4 回に減らし、初段戦は 8 人 1 組にするなどの対策が順次とられた。

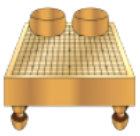
2006 年に楽碁会が設立されて、すぐに参加し教室の補習の感じで、カードを使わずに対局指導し、本人もそれで楽しんでいた。大会は審判を務めることが多く、持ち点が基準点のままであった。そのため、いざ大会に出るときは 40 点ほど上乗せして出た記憶がある。楽碁会の会則は持ち点がインフレになる取り決めになっていたので、私が代表幹事になってから三部会共同で改めた。

2018 年頃本郷水曜教室から、講師依頼の話があり、土曜教室と掛け持ちすることになった。こちらはワンポイントだけを担当し、用意してもらった教材のテーマ図に至るまでの手順を説明し、その場面での選択肢とその後の展開を説明したもので、受講生の評判は良かったように思う。

私が囲碁を始めたのは大学の教養時代で、教養3科目の一つとして、麻雀、ダンスと共に始めた。囲碁以外は今全くやっていなくて、囲碁はわが人生で一番役立っていると思う。学部に入ってから、製図の時間に仲間内で対局し、今でいう初段位の腕前に達した。その時の仲間が今も時々集まって囲碁を打ち、旧交を暖めている。

会社に入ってからは囲碁好きの上司に揉まれ、会社の五段格まで上達した。2000 年頃、栄区囲碁連盟の大会に五段で出場し、ほぼ互角の戦績を残せたので、普及会でも五段で登録し、現在に至っている。同じ頃鎌倉駅前の碁会所に回数券で通い、神奈川県でも有名人であった笹田さんに打ってもらった思い出がある。3 子で始めたが負けが続き、4 子に変更しても勝つ回数は増えたが 5 分には至らなかった。歳と共に根気が低下し、その頃が腕前のピークだったと思う。

囲碁は、手軽にでき、ハンデがわかりやすいゲームであり、レベルが違っても楽しく対戦できる。又認知症にも予防効果があると言われており、老後の趣味として最高のものと言えよう。普及会の活動に参画し、囲碁王国達成の一翼を担えたとすれば、誠に歓びに堪えない。



囲碁川柳

●佳作作品（二十八句中十句）

祖父と囲碁いつかごかくにうちたいな　川原　拓真

夏の雲ごばんのほこり横にみる　澤田　珪子

普及会妻は笑顔で送り出す　田中　建一

碁と酒とどちらが好きか孫が問う　田島　芳伸

キリチガイ両方伸びて死に別れ　酒井　孝策

認定会天敵又も同じ組　東　寛二郎

初戦負け今日も親睦囲碁大会　道休　俊和

ボランティア囲碁のお陰で妻笑顔　武藤　守

ボケ防止囲碁を習いて友が増え　宮島　徹

囲碁ソフトクリームほどに甘くなく　牧野　貞夫

親子で通った囲碁教室

石川　務（豊田日曜教室インストラクター）

私が囲碁を始めたきっかけは、栄公会堂でのイベントで、当時小学2年生だった長女と一緒に囲碁の体験コーナーに参加したことです。長女も「おじいちゃんに教えて貰って楽しかった」と興味を持ったようなので、紹介して頂いた普及会の豊田日曜教室に親子二人で通うことになりました。

当時、豊田日曜教室には長女と同じ位の年齢の子供が何人もいて、楽しく遊んでいました。私も、初めての認定会で、子供たちと熱戦を繰り広げたのを思い出します。その後、次女も加わり、親子3人で教室に通いました。丁寧に教えて頂いた先生方、優しく接して頂いた生徒の皆さん、そして親子で対戦して頂いた皆さんには、大変お世話になりました。どうもありがとうございます。

囲碁の良いところは、お年寄りから子供まで幅広く楽しめるところだと思っています。コロナ禍では対局の機会も減ってしまいましたが、今後も末永く囲碁と付き合っていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

親子で囲碁

宮島　誠（飯島土曜教室インストラクター）

我が子に対し、日本伝統のゲームとして将棋と囲碁、どちらかまたは両方をやって欲しいという思いから、より低年齢からスタートできる囲碁から始めようと4路と9路の碁から教えたことが始まりでした。少しわかりかけてきた頃に子供達とできればと探して見つけたのが飯島教室でした。

子供のやる気を出させることが上手な先生達のおかげで、飽きっぽい娘ですがやる気をもって続けていることを嬉しく思っています。私とは週1位で打ちますが、強くなって欲しい思いからいろいろ言い過ぎてしまい後で反省し、また言い過ぎの繰り返し‥それでも誘いに嫌と言わず着実に身につけているので結果オーライかなと感じています。

どういう形でもまずは楽しんで打って、そしてそれ以外の何かを見つけてくれればと思っています。私の目標は娘とペア碁で何かの大会で優勝することですが、棋力向上もそうですが、ずーといい関係でいること、そちらの方が大変かもしれません。

息子と囲碁と私

宮地伸治（本郷日曜子供教室受講生）

息子と一緒に囲碁を覚えてから今年で３年余りが経ちました。この3年余りの間に2人の棋力の差はかなり広がりました。やはり子供の方が上達は早いです。そんな棋力差のある私と息子ですが、一緒に囲碁を覚えたからこそのメリットもあると考えています。

例えば、息子の対局の検討に付き合うことです。息子は毎日のようにネット対局をしています。対局が1局終わるごとに勝っても負けても私を呼んで検討を始めます。正直、高段者の息子の話を級位者の私が理解できるわけありません。しかし、私にその対局で自身の良かった手、悪かった手を説明することで理解を深めているようです。もし、私が全く囲碁を知らなければ、このようなことはなかったでしょう。

息子は自分で考えたことを私に話すことで頭の中を整理し、強くなっています。でも、私とすれば息子が強くなることより、囲碁を通じて息子との時間を多く共有できることが一番のメリットです。

囲碁川柳

●佳作作品（二十八句中六句）

急所に一石鼓動高なり指震え　奥村　文夫

子らが問う先生昇段いつになる？　坂田　保夫

教室に豆棋士集い蝉しぐれ　中村　啓

老いて囲碁病気（やまい）忘れて子等と打つ　高橋　宏

囲碁教室生徒に教えて強くなり　三箇　豊

碁敵に夢の中では大勝し　堀田　昭司

「パチリコの先生」

田中建一（子供普及副会長）

私のボランティアのスタートはパチリコの先生からでした。2002年、会社を退職して、鶴田会長に案内され、笠間小に六路盤と七路盤表裏のパチリコを持参して、はまっ子に、小山台のパン屋からパンの耳をもらい、いたち川で、子供達と遊びながら過ごしたのが始まりでした。

その後、囲碁教室が出来、日本棋院横浜栄支部が設立され、楽碁会も出来て、楽しい囲碁の友人達が多数出来ました。

仲間達と、ハワイ、台湾、中国、韓国と海外親善囲碁旅行に参加できたのも楽しい思い出となりました。

コロナで中断しましたが、毎週土曜日の囲碁教室、楽碁会終了後の「あかしや」での反省会、年数回の伊豆温泉付きの貸別荘での囲碁合宿は、今でも続いています。

82歳になりましたが、まだ孫達より小さな子供達や、碁友達との交流が続けられる限り、頑張って行きたいと思っています。

栄区囲碁普及会 20 周年を祝う

坂田　保夫（栄区囲碁普及会元副会長）

栄区の 囲碁普及活動は 素晴らしい発展をしてきた。 小生も その中の 一員として 行動出来た事に感謝しています。会は 多様な方々の集まり、協調しあえる行動集団です。教室では、囲碁文化の継承・授受のサイクルが、囲碁仲間増の基となったと 思っています。

小生の 囲碁との付き合いは、田中さんに誘われて、本郷台の 棋楽会に入り、高段者の方々に教授戴いたのが、囲碁にのめり込みの始まりです。会では500問からの詰碁問題集を与えられ、夢中で解いたことを懐かしく思います。現在 囲碁三昧の毎日に成っています。

今、囲碁界は、AI が幅を利かせておりますが、現在、コロナ禍の中にあっても、インターネットを使った囲碁文化の享受を得られるように、新たなデジタル化時代の普及活動が見える様です。

栄区囲碁普及会のさらなる発展を祈念します。

源氏物語絵巻（対局風景）

囲碁との出会い

林　幸一（入門・初級コース副会長）

荏原製作所羽田本社に入社当時は、昼休みの職場のあちこちに碁盤を囲んだ人だかりがありました。当時は覗き見程度で関心がなく数年後に広島に赴任した際にアマチュアで度々優勝していた村上文祥さんが、瀬戸内で歴史上有名な村上水軍の末裔で因島出身と伺い囲碁に興味を持ちました。広島では対局の機会がなく本社に戻り囲碁クラブに入会し漸く本格的に始め優勝もしました。

社内は勿論官公庁でも知られた囲碁の村上で日本棋院での社内大会の段取り及び指導をして頂きましたが、最近雑誌で井山裕太四冠の幼少時代に因島の研修案内に同行されていたことが記されており今は亡き村上さんの水軍を思わせる豪胆なお姿を囲碁クラブ及び仕事の場面を思いながら偲んでいます。

1980 年以降は多忙のため対局の機会がなく過ごしていましたが、5 年前の飲み会で先輩の今岡さんのお誘いで金曜教室に入会し 7 級から始め「目指せ初段囲碁は序盤で差がつく」などの本及びテレビ講座で腕を磨き 3 年後に初段の認定状を手にしました。先般の栄区ネット囲碁大会にて二段の認定状を頂き続く第 2 回大会でも 2 勝 1 敗で昇段の可能性があり囲碁との出会いに感謝しています。

私の囲碁経歴と人との出合い

池田　茂（豊田日曜教室インストラクター）

普及会創立20周年おめでとうございます。ますますのご発展を祈っております。

私が入社した会社のレクレーションで、年1回囲碁大会があり親睦を兼ねて参加したのがキッカケで囲碁を始めました。

入社した時の先輩に、佐藤さんという方がいて、出会い知り合ったお陰でここまで長く囲碁を続けて来られたと思います。佐藤さんは常に私の一歩先を行く方で、佐藤さんが退職されるまで追いつくことが出来ませんでした。

最初は何も分かりませんでしたので、「月刊囲碁」を3年間購読し、休みの日はパチリパチリとよく並べたものです。8級からのスタートでしたが、会社の囲碁大会に参加して少しずつ力を付けて来た様に思います。

30才の時に栄区に引っ越してきました。区民囲碁大会があることを知り、早速申し込み、新聞の棋譜を並べるなど準備して大会に参加しました。当時通勤経路が港北区を通り勤務していた関係で、各区対抗囲碁大会には港北区代表として出場したこともあります。その大会では栄区が優勝しましたが、私は栄区代表の方とも対局し、全勝することが出来ました。長年の目標がかない非常に嬉しかった事を覚えています。又、数回しかありませんが、7～8手先まで読んでその通りの流れになったことも嬉しかったです。

その後川崎駅近くに転勤となり、京浜川崎クラブを利用する様になりました。そこでは席亭の大森さんに、よく指導碁を打って頂きました。又、女子大生の元院生の方、現在プロで活躍されている孫マコトさんが小学生の時対局したこともいい思い出です。

京浜川崎クラブでは、毎週木曜日にトーナメント戦があり、A クラス六段以上、B クラス四・五段、それぞれ20名位の参加で、連続2回優勝でランクが1つ上に上がります。私は四段からのスタート、力量は三段位でしたので最初はなかなか勝つことが出来ませんでしたが、続けている内に優勝することが出来る様になりました。

最後に佐藤さんからのアドバイスを書いておきたいと思います。

①早い段階でヨセを打たないこと。

②相手の間違いを期待して打たないこと。

③的外れな所に打たないこと。

という事を教えて頂きましたが、今もって直せていない様です。(笑)

私は「努力は力なり」との思いで、これからも出会いを大切にしつつ、囲碁を続けて行きたいと考えています。

囲碁普及会に入会して

東　寛二郎（上郷金曜教室インストラクター）

私が初めて囲碁普及会の教室に申し込んだのは2013 年なので既に 8 年経過したことになる。

囲碁は学生時代に少しかじったことがあるくらいで、その後は何十年もやっておらず、自分でもどのくらいの棋力があるのか全く分からないまま、とりあえず「仮 5 級」ということでスタートした。その後何回かの認定会を経て 2015 年秋に初段、そのすぐ後 12 月に日本棋院栄支部の認定会で運よく 3 勝して 2 段をもらうことが出来た。

普及会主催のいろいろなイベントの中でも私が最も好きなのは「栄こどもとおとなの囲碁大会」だ。自分の孫ほどの小さな可愛い子供達が白髪のおじいさんやおばあさん達と対局するのを傍で見ていると実にほほえましく、時にはその審判を勤めたりする事も貴重な体験である。

それから囲碁教室での忘れられない思い出は、私の出身大学は学生数が少なく、滅多に同窓生に出会うことは無いのに、同じ教室に偶然先輩が二人もいたことである。しかもその中の一人は何と高校も同じだった！　横浜の栄区とは遠く離れた東京の西のはずれの方にある高校なのに・・。

このように私に思いがけない出会いをくれた囲碁教室であるが、これからも自分の段位に恥ずかしくない実力をつけるため、また囲碁を通じて地域の絆を強くするために微力ながら寄与出来ればと思っている。

囲碁との出会い

今村 真吾（本郷日曜子供教室インストラクター）

私が囲碁と出会ったのは、高3になったころ叔父から無理やり手ほどきを受けたのが始まりでした。最初は何が何だか解らず、しばらくは手も付けていませんでしたが、そのとき渡された高川格著の「碁の学び方」（今では聖書として大切に保管しています。）を改めて読み始めると、どんどん引き込まれ気が付いたら囲碁の魅力にはまっていました。おかげで一浪する羽目になり、今思うとそこが私の人生の岐路だったのかも知れません。（ただ単に囲碁のせいにしているだけですが・・）

大学在学中は何故か囲碁部には属せず、実家の近くにあった小さな碁会所で意を決して扉を叩いたのが始まりでした。当時は今のようにインターネットで自由に打てる時代ではなかったので碁を打とうと思ったら碁会所に行くぐらいでした。初めて碁会所に行ったとき、初段の方に4子置いて打ってもらいましたが、最後の最後に大石を取られてあっけなく負けてしまいました。そのとき初段の方がニコニコしながら、この石は生きていると思ってたんでしょ？碁は難しいんだよ、と言われたのが今でも悔しくて頭に残っています。40年以上も前のことです。そこの碁会所では私が一番若かったのですが、様々な職業の方（歯医者さん、弁護士の先生、会社の社長さん、タクシーの運転手さん等々）がいて、碁を打つだけでなく色々な話を聞けてとても楽しかった思い出があります。そしてパソコンが世の中に出回り始めた頃、囲碁仲間からパンダネットのことを教わり、それからは主にネット碁を楽しみながら今に至っています。

子供への指導法について

子供に囲碁を教えるということは、学校での勉強のように興味を持たせ自分で考えさせることだと思います。囲碁も数学と同じで熱し難く冷め難いと言われますが、私も初めて囲碁を教わったとき、大変取っ付き難かった記憶があります。でも日曜教室に通って来る子は、既に興味を持っている訳ですから、あとは如何に自分で考えさせるかだと思います。だから直ぐに答えを示して考える時間を与えないのは良い指導とは言えないかも知れません。そのこととは相反するようですが、ある程度碁が打てるようになったら、いちいち理屈を付けて教えるのではなく、特に子供は飲み込みが早いので、「二目の頭は見ずハネよ」のように形やパターンを覚えさせた方が効率も良く、上達が早いのではないでしょうか。

大人同士でも言えることですが、置き碁は下手にとって少しきつめの手合いにしたほうがいいと思います。また、棋力が初段くらいになったらいつも石を一杯置いて教わるよりも、自分と同じか少し上くらいの棋力の人と打つほうがステップアップしやすいように思いますし、そのとき高段者を交えて打った碁の並べ直しが出来ればより勉強になると思います。

囲碁の上達について

最近、井山名人が激戦を制して連覇を遂げましたが、相手の一力天元を修正能力が高いと褒めていました。でもプロは実力が紙一重ですから、修正能力が低ければタイトルなど取れる訳がありません。

アマチュア高段者の碁でも、つい自分の打った手や作戦に拘り過ぎて形勢を損ねてしまうことがよくあります。それに早く気付いて修正出来るかどうかが強くなるかどうかの分かれ目なのかも知れません。

最近、AIの打ち方(特に布石)を真似るのが流行っていますが、AIの打ち方を全て真似るのは疑問に思います。AIは勝率を優先して深く手を読んでいて必ずしも形に拘らないのに対し、人間は余り深読みせず（プロは別ですが）、感覚に頼って打つことが多いからです。AIはカラ攻めをしてきませんが、石を取ることを読み切ればとことん追求して仕留めます。なので、私は怖くてこのような打ち方を真似出来ません。ただ、AIは石の捨て方が非常にうまく、とても勉強になります。

また、基本的な考え方として常に頭に置いてもらいたいのが、厚みに対する考え方です。厚みに近寄るなとは良く聞く言葉ですが、厚みに近寄るといけないのは戦いとなったとき最初から不利な戦いを強いられるからですし、自分の厚みから打つのが良くない理由は、効率が悪く凝り形にもなるからです。このことが判っているかどうかで打ち方は大きく変わってきますし、戦いも有利に進められると思います。

古希を超えての囲碁との再会

渡辺　紘（広報副会長）

サラリーマン時代の30代前半、上司の趣味であった囲碁に付き合い星目風鈴での完敗から？十年、72歳にして囲碁普及会本郷水曜教室に16期生として入学。修了すると本中日曜教室で杉浦さんの担当していた会計処理を補佐しているうちに、いつの間にか不得手な広報を担当するようになってしまった。現在ではアラエイティの方々が普及会の運営に尽力されているが、時の流れとは言えせめてアラシックスティの方々の参画を望むのは夢物語であろうか？

囲碁を楽しむようになってからの様々な方々との交流は日々を高揚させている。もし囲碁を打っていなかったら、多分アルコールを楽しみ過ぎて今頃はこの世にはいなかっただろう。囲碁に感謝‼　しかし棋力は相変わらず。どうしたら･･･。

囲碁との出会い

松浦　一（本中日曜教室インストラクター）

とにかく腕白坊主の私を病弱な母が手を焼き支えられず、従妹の間柄である日本棋院京都支部代表藤田梧郎先生の奥様のお世話になることになり、自然と囲碁を覚えたようです。多分7歳の頃に「ツケノビ定石」を教わった記憶があり、それが囲碁との出会いかと思います。8歳の頃には初段格ほどになっていたそうで、プロになることを期待されていたそうですが見事に裏切りました。

社会人になって職業別対抗戦など数々の大会に出場、囲碁を充分に楽しみました。

60 歳を期にボランティア活動の一環として普及活動に関わるようになり、大人・子供を問わずに本郷小学校や養護施設などで指導しておりました。

80 歳を迎えて楽しんで打つよう心掛け、コロナ禍が比較的落ち着いている昨今は、囲碁好きの方との対局やネット碁などで毎日一局以上打っています。残念なことに最近は「ミス」「ポカ」が多くなりましたが頑張っています。

素晴らしいゲームに出会えて･･･　感謝！感謝‼の毎日です。

囲碁に出会えて

済藤　信枝（本中日曜教室受講生）

私が囲碁を始めたきっかけは、61歳の時に胃がんの手術を受け体力的に働けなくなり、1年後、親を看取り、実家の処分、墓じまいを経て一人暮らしをしてからです。

念願の世界一周の船旅をしている時に囲碁・将棋・麻雀の中から囲碁を選びましたが、難し過ぎて、何もわからない中、横浜には初心者から教えてくれる所があると全国から乗船している何人もの方から聞きましたが、詳しいことはわからず帰国。近くのセンターで囲碁教室の人からも栄区にあるとのこと、そこから教えて頂き現在に至っております。

病気のせいにしていると叱られるかもしれませんが、体力・気力・知力すべてが劣っているため教室でも一局しか打てませんと公言して、やさしい先生方に支えられ16級まで来れたことを心から感謝しております。

これからもこの本中日曜教室で少しづつでも長く、楽しく勉強していきたいと思います

囲碁を始めて

杉中　利治（本中日曜教室受講生）

若い頃からこれといった趣味を持たなかった私は定年後の生活にはたと迷うことになりました。友人たちの中には囲碁を始めるものもいましたが五目並べしか知らない私は何となく腰が引けていました。ところが何の因果かたまたまタウン誌で会員募集を見て電話したところ親切に案内され入会したのが囲碁を始めたきっかけです。

初めこそ対戦相手の敵失に救われて進級しましたが化けの皮は直ぐ剥がれました。始めて3年以上になりますが大海を小舟で漂っている感じが抜けずまだまだ囲碁が楽しいという心境には至りません。頂いた教材を勉強しても盤面がなかなか頭に入らず苦労しています。

その昔数学で幾何が不得手であったことを思い出し関連ありかと勝手に自己分析しています。図形として捉えるのが苦手なら一手一手に意味があると考えてやるしかありません。反復練習を重ね少しでも進歩して「囲碁が趣味」と言える日が来ることを願っています。

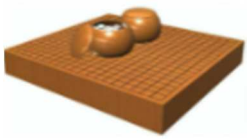
囲碁と家族の絆

田中 雅仁（豊田日曜教室インストラクター）

栄区囲碁普及会20周年おめでとうございます。

20年という長きに渡り会があるのは、関係者皆様のおかげと感謝しております。私が囲碁を始めるきっかけとなったのは、家内の友人から子供達の習い事として囲碁を薦められ、近くで囲碁と触れ合う場を探すところから始まりました。その折、雪が降る鎌倉（円覚寺）にて子供囲碁大会があり、同時に開催されていた初心者教室があることを知り参加しました。その際お会いした先生に栄区囲碁普及会をご紹介いただいたことがご縁で、飯島の教室を伺ったところ親身に指導してくださる先生達とお目にかかり、お世話になるようになりました。当初は家内が率先して始めたものの、結局自分が面倒みることとなりましたが、囲碁のルールがわかってくると自分も面白くなり、週末娘と囲碁教室に行くことが一つの楽しみとなりました。

今では年頃となった娘達は囲碁以外にも興味を持つようになり、親子で囲碁を打つ機会は減ってしまいましたが、それでも親子の会話の中で囲碁の話は消えることは無く、貴重な娘達とのコミュニケーションに役立っています。単に囲碁を教えてくださるだけでなく、家族の絆をも深めてくれた囲碁普及会へ感謝申し上げるとともに更なる発展を祈念しております。



囲碁を始めて良かったこと

田中　咲彩（豊田日曜教室受講生・小学５年生）

私が囲碁を始めたきっかけは、囲碁を楽しそうに打っている父や姉の姿を見て興味を抱いたことです。また、父が毎週テレビで「囲碁トーナメント」を見ていて、面白そうだなと思ったところもありました。囲碁の面白さは、将棋やチェスと違って石の動きが決まっていないので、自分の好きな場所に打てることだと思います。また、対局して相手の石を一気にたくさん取れた時に嬉しい気持ちになります（相手のことを思うと・・・ですが）。対局中相手がどのように石を動かすか想像するので、想像力が少しでも豊かになっていればなぁと思います。

私と囲碁と囲碁普及会

田中　咲希（豊田日曜教室受講生・中学２年生）

私の囲碁との出会いは、小学校低学年のころ両親に勧められて囲碁普及会に通い始めたことです。初めはルールも良くわかりませんでしたが、一緒に始めた父や教室の先生方に教えて頂きながら覚えました。認定会で級位が上がっていく事がとてもうれしく、そうした中で囲碁の魅力や醍醐味を知り、進んで囲碁とかかわるようになりました。中学校に入って、同じように囲碁を習っていた友達が出来、囲碁話に花が咲いたりして、囲碁をやっていて良かったと思います。

特に、囲碁普及会の先生方やメンバーには大変お世話になりました。私にとって囲碁普及会の場は単に囲碁を打つところではなく、地域の方々と触れ合う息抜きの場でもありました。友達の通っていた囲碁教室は、ただ黙々と先生と囲碁を打ち指導を受けるだけだったと聞きます。級位に関係なく気軽に囲碁が打てる囲碁普及会で楽しく学ぶことが出来て良かったと思います。

親子で囲碁をしてよかったこと

濱本　剛志・千紘（親子で本中日曜教室受講生）

栄区囲碁普及会、創立 20 周年おめでとうございます。娘の千紘が、初めて囲碁に触れたのは、小学校 1 年生の時、はまっ子スクールです。そこで興味を持ち、本中日曜教室に通い始めました。親の私は、娘が教わっているのを後ろで見ているだけでしたが、先生方に誘っていただいたこと、一緒にできたら楽しいだろうなと思い、少し遅れて入会しました。

一緒に習っていると、娘が先生に教えてもらったことを吸収して成長していくのがよくわかります。2 人で対局していると、考えていることや、性格も少しわかる気がします。負けたときの悔しそうな表情や、勝ったときのうれしそうな様子を見られるのも、親としてうれしいことです。

入会後、西区に引越ししたので、教室のある日は電車とバスで通っているのですが、行き帰りに 2 人で話す時間が持てるのも、囲碁を習ったおかげかなと思います。これからも楽しく囲碁をやっていきたいと思います。

よろしくお願いします。

一手の価値の大きさはどのくらいか？
強くなるためにはどうしたらよいか？

正田　倶基（本郷日曜子供教室インストラクター）

■囲碁の一手の価値の大きさはどのくらいか？

答え;大雑把に言って、序盤、中盤では 20～35 目くらいですが終盤では 0～15 目くらいです。そして1局全体では現在では 13 目と推定されます。これは現在はコミが 6.5 目なので、白番で打つ場合と黒番で打つ場合の差が一手の最終的な価値になるのでコミ分の 2 倍の 13 目が答えとなります。

■強くなるためにはどうしたらよいか？

・先ずは手筋を勉強することが手っ取り早い方法です。本屋で自分の技量にあった手筋の解説本を探してそこから始めるのがいいでしょう。詰碁がいいとよく言われることが多いですが、これは可能性のあるあらゆる場合を読まねばならず、時間もかかる結構大変な作業ですので低段者以下の方々にはあまりお勧めできません。

・自分の打った碁の反省から学ぶことがなによりも大事です。そしてできれば自分よりかなり強い人に自分の打碁を診てもらって意見を聞くことがためになります。

・大局観を養うこともとても大事です。

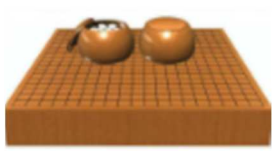
例えば、

①まだ序盤の段階で一手の価値が 20～35 目くらいもある手がたくさんあるのに、僅か数目の石を取ることにとらわれて価値の小さい手を選んでしまう、

②相手の地ばかり気にして打ち込んでいってわざわざしないでもいい苦労をして負けてしまう、などです。

①は級位者、低段者に多くみられる過ちです

②は私に 3 子くらいの高段者にもよくみられる過ちです。



【創立 20 周年お祝いの言葉】

樋口　喬之（第８期受講生）

この度は、栄区囲碁普及会が創立 20 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

私が初めて囲碁普及会に出会ったのは小学校 5 年生の時でした。それからもう 15 年以上お世話になっています。初めはまったく囲碁が理解できず、まともに打てるようになるまでに随分と時間がかかりました。教える側としては困った生徒だったかと思いますが、普及会の先生方は強く叱ることなく、根気強く丁寧に教えてくださいました。この指導法は、私の指導方針の基本にもなっています。

囲碁をやっていて良かったことはたくさんありますが、私が最も良かったと思うのは、普及会をはじめとした栄区の囲碁界を支える皆様の活動を小さい頃から間近で見られたことです。囲碁を普及すること、一人ひとりが囲碁を楽しめる環境を作ること、より良い組織を作ることに尽力されてきた先生方を心から尊敬しています。

末筆ながら、栄区囲碁普及会の益々の発展をお祈り申し上げます。

八十の手習い

吉原　英夫（上郷日曜教室受講生）

栄区囲碁普及会創立20周年おめでとうございます。私は学生時代から囲碁を習いたいと思っていたのですが、就職後の仕事が会社の経理で、ソロバンと手動式計算機の時代で毎日残業の連続でした。現在ではコンピューターを使用して1週間で決算業務終了です。コンピューターは2進法で計算しますが、囲碁は白180個、黒181個合計361個の碁石で、碁盤361個の地目の陣取りゲームです。

今日世界100か国以上の老若男女が囲碁を楽しんでいます。ちなみにいつ頃から日本で囲碁が始まったのか調べてみました。奈良、平安時代では僧侶や貴族が、室町時代には武士が、江戸時代に庶民へと、又囲碁のプロが出現したと言われています。今日の囲碁、将棋時代の先駆けであったのでしょう。

私は諸先生方の指導よろしきを得て、2年余りで19路盤に到達することができました。高齢化時代の今日、頭の体操の一つとして囲碁は打って付けの教養講座です。

第二の人生の活性化

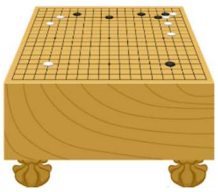
中村光良（本郷土曜教室前チーフ）

当普及会設立の発起人の一人鶴田郁夫さんの誘いにより、本郷台小学校で囲碁を教えることになったのが、この会にかかわる始まりでした。2005 年 4 月に本郷土曜教室（上達コース）が開講され、2007 年 4 月より 2019 年 3 月までそのお世話をすることとなりました。その間に多くの優秀なインストラクターの方々のご協力のもと教室の運営方法について試行錯誤を重ね、40 名の初段（小学生3，中学生7，高校生1，成人女性5、各教室合計 163 名の約 25%）を世に送り出すことが出来ました。参加者夫々の個性に対応し乍ら、研修効率を如何に高めるかが主要な課題であったと思われます。

また、誠に残念なことに土曜教室のインストラクターの杉浦次利さん、山田文雄さん、酒井　巧さん、仲西聰夫さん、武藤　守さん、肥塚淳次さんがお亡くなりになりました。特に杉浦さん、肥塚さんは栄区の囲碁の普及活動に大きな貢献をされました。皆様のご努力に感謝し、心よりご冥福をお祈り致します。

私自身への囲碁の効用については、第二の人生の活性化でした。脳の劣化防止に加えて、何より沢山の楽しい友人が出来たのは素晴らしいことでした。しかし乍ら現在の日々は次の通りですが、AI を勉強して、少しは世の変化に対応しましょう。

取段より 「手談」楽しむ　囲碁の日々
加齢なる　時を過ごして　暮れる日々



囲碁普及会について

安田テイ子（元栄区囲碁普及会幹事）

囲碁普及会の発端は、「はまっ子」の子供達に、6 路盤(パチリコ)を用いて石取りゲームを一緒に楽しむことから始まりました。それがきっかけとなり、2001 年 10 月に「栄区囲碁普及会」が発足しました。

従来、囲碁は有段者が楽しむゲームというイメージでしたが、普及会会員の努力で初級者や級位者の方々も楽しめる感じが強くなってきたと思います。そして囲碁を知らない人、子供、お年寄りと皆さんで楽しめる場をと会員の方が呼びかけ、多数の賛同が得られ底辺が拡大し、現在に至っています。

囲碁普及会の教室は、自由に参加出来、気楽に学べる場です。これが何より嬉しく思っています。

残念ながら、今はコロナ禍で活動が制限されていますが、一日も早く自由に活動できることを願っています。

感動を伝えたい

有本　恵美子（上郷金曜教室インストラクター）

私は2014年に初段の免状を頂き、その年からインストラクターとして担当の生徒を指導する立場になりました。3 年後の2017年には「手筋」の講義を任されました。当時囲碁将棋チャンネルで「盤上の美術館」という番組をやっていて、毎回感動して観ていたのでその感動を伝えたいと思って、担当した講義でその棋譜を並べて解説をさせて頂きました。今思うと生徒さん達には難しくて、まったく伝わらない自己満足の講義だったと反省しています。

さて、その講義の日にはテレビ「囲碁フォーカス」の取材が入っていて 9 月 3 日にオンエアーされました。番組では、栄区囲碁普及会は100人以上のボランティアが活動していることが紹介され、蘇耀国さん曰く「やる気がすごい!!　これだけやる気のある場所はみかけない」と熱く語ってくださいました。又、認定会や囲碁大会の際に沢山のプロ棋士にお会い出来た事は私の心の宝物です。　中でも囲碁フォーカスの講師をされていた小山竜吾先生に「テレビに出ていましたね」とあの優しい笑顔で声をかけて頂いた事は最高の思い出です。

これからも囲碁普及会がますます発展することを願っています。

囲碁や先生方との出会い

植田　有咲（第１期受講生・元囲碁普及会会員）

私は幼稚園生の時に父の影響で囲碁を始め、小学2年生の時に囲碁教室の1期生になりました。たくさん大人の方がいらっしゃる場所に参加するのは初めてで最初の頃はドキドキでしたが、先生をはじめ皆さんとても温かく、毎週土曜日の教室に行くのが楽しみでした。

教室では、単に上達する為の指導だけでなく、試合中のマナーを時に厳しく指導して頂いたことと、皆さんとの様々なコミュニケーションを通して、人間としても大きく成長できたと思います。同じ時期に始めた友人たちが先に段を取得していく中、私はなかなか昇級できず、何度も自分には才能がないから辞めようと考えたこともありましたが、先生方の熱心なご指導のお陰で高校生の時に二段を取得することが出来ました。これまで続けてきて本当に良かったと思いました。

最近は囲碁を打つ時間も減ってしまいましたが、コロナが収束したらまた大会等に参加させて頂きたいと思います。これまでお世話になった先生方に心から感謝し、今後の人生も頑張ります。

囲碁に感謝

増田　裕一（上郷金曜教室受講生）

私は上郷日曜教室でゼロから囲碁を始めて７年になります。会社勤めの時に囲碁好きの同僚二人が短い昼休みに昼食を抜きにしてまで対局に熱中しているのを見て、そんなに面白いのなら自分もいつかやってみたいと思っていました。

今では良い趣味に出会ったことと平素、献身的に指導してくださるインストラクターの方々に感謝しています。運動ではテニスをやっていますが、もっと歳をとってテニスができなくなっても囲碁があれば楽しい人生が送れそうに思います。

囲碁の勉強にはキリがありませんが私は級位者向けの気に入った本（石倉昇著、羽根直樹著など）を繰り返し読むようにしています。AI 囲碁の解説書も驚きの連続です。

コロナ禍が収まれば気の合った友人とどこかの温泉旅館に泊まり、日中は囲碁三昧で過ごし、夜は酒を酌み交わす、というのが目下の夢です。

栄区囲碁普及会２０周年記念「発足時の想い」

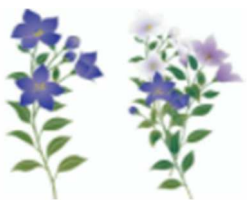
植田　米男（栄区囲碁普及会元副会長）

栄区囲碁普及会には、当時の囲碁普及の愛好家が多数いました。

当時、栄区囲碁連盟は須賀義夫会長のもと約 100 人の会員で構成され、各クラスに分けて囲碁大会を実施し、会員の段級位は名簿で管理されていた。また、時を同じく栄碁クラブが発足し約 40 名が連盟に加入し、栄区ならではの囲碁大会と発展した。

同じころ、子供の囲碁指導に熱心な鶴田郁夫氏（五段）が「新案 6 路盤」を作成し普及を始めた。栄碁クラブ会員は、市田氏の勧誘もあり全員賛同し、即日栄区囲碁普及会に加入することとなった。栄碁クラブの主な会員は、栄区囲碁普及会の役員を引き受け、又当時区内の小学校には「はまっこ制度」として子供を 2 時から 5 時まで預かる制度が有り、栄区囲碁普及会の会員はそこへ囲碁指導に出かけました。子供に囲碁と「棋道の精神」の「礼に始まり礼に終わる」を指導した。子供たちが素直に行儀よく応じたことは素晴らしかった。

私は飯田橋で、日本電気技術者協会にいたとき、日本棋院本院にも行って「囲碁未来」会員になって以来、「囲碁未来」誌を初心者に良い指導書として今も活用しています。そのころ「さかえの石音」のデザインを三美印刷に依頼して現在に至ったこと及び私の囲碁指導に熱がこもったことは、大変うれしく、誇りに思っています。



豊かな人生をくれた囲碁に乾杯！

道休　俊和　（栄区囲碁普及会元副会長）

◆子供への普及活動のスタート

出版社を退職した1998年4月、『ヒカルの碁』ブームで子供達の囲碁への関心は高かった。「碁を打てる」・「時間がある」ことから「子供達に囲碁の楽しさを教えよう」と考えていた時、六路盤の『パチリコ』を製作し、囲碁普及に情熱を燃やしていた鶴田郁夫さん(栄区囲碁普及会・初代会長)と出会った。自治会館で始めた『本郷台親子囲碁教室』の最初の生徒は、私の孫(小学1年)を含めて10人足らず。やがて他の地域の親子も加わり、また指導者として杉浦次利さん(栄区囲碁普及会・第3代会長)が参加、本郷中学校の校長先生のご厚意でミーティングルームを借りて教室を移転、『栄区親子囲碁教室』と教室名も変更した。

2001年に栄区囲碁普及会が創立され、さらにその4年後の2005年、普及会教室の入門・初級コース『本中日曜教室』として引き継がれた。本郷地区センターで活動していた囲碁教室も、上達コース『本郷土曜教室』として再スタートした。普及会が本格的に運営する「2教室」のスタートは、財政面でも安定し、その後の普及会の発展につながったと思う。

私が日本棋院の囲碁普及指導員になったのもその頃で、碁石・碁盤など2割引で購入出来たのも有難かったが、全国で普及活動に取り組んでいる人たちとの情報交換や囲碁談義が私にとっては大きな刺激になった。

◆普及会の発展に思うこと

囲碁人口の減少が叫ばれる中、栄区では子供や女性を含めて囲碁ファンは増え続けている。その要因はたくさんあると思う。

①市や区などの官に頼らず、民間の囲碁ファンの力で活動

②無償の囲碁ボランティアを貫いてきた

③一人一人が無理をせずやれることをやってきた

④商売や政治、宗教とは関わらなかった……なども一例だが、特に全国でも類を見ない、級位者中心の大規模な囲碁同好会『楽碁会』の誕生と日本棋院横浜栄支部の設立が、発展の大きな力になったと思う。

そしてもう一つ、歴代の会長をはじめ役員の尽力もさることながら、認定会で立ちずくめの審判を務めたり、大会の準備に汗を流したりする会員一人一人の協力が普及会の発展を支えてきたことを忘れてはならないだろう。

今回この記念誌編集委員の一人に選ばれたことで、24年にわたる普及活動を振り返る機会を得た。囲碁を通して多くの人々と出会い交流を深めていったこと、対局に勝って喜ぶ子供たちの沢山の笑顔、年を重ねてなお棋力向上を目指す元気な姿……懐かしい思い出が次々に浮かんできた。これまでの私の人生を多彩に豊かにしてくれた囲碁に乾杯！

栄区囲碁普及会創立と囲碁王国の土台

佐野　嘉男　（日本棋院横浜栄支部前支部長）

●栄区囲碁普及会創立のきっかけ

栄区囲碁連盟第2代会長の市田勝一氏が会長に就任して間もなく“鶴田郁夫氏が小学校を訪ねて子供たちに囲碁の普及活動をしている仕事は本来連盟のやるべきことではないか“として当時副会長であった私に呼びかけられ、当時神奈川県会議員で日本棋院の普及指導員でもあった関口正俊氏の事務所を訪ねました。同氏も趣旨に依存はなく早速鶴田氏を呼び4人で基本方針を決めたのが栄区囲碁普及会発足の原点です。

とき2001年9月のことでした。

●囲碁王国の土台

それから20年、囲碁王国を支える4つの団体を取り仕切っている幹部の皆さんは、ほとんどが普及会の生徒の卒業生達です。20年かかって皆さんが固められた土台がしっかりしているからこそ、栄区に囲碁ががっちり根を張っているのだと確信しています。

今後とも先輩たちが築いた土台をきっちり守って一層のご発展を祈念致します。

私の栄区での囲碁活動

牧野　博（第４代栄区囲碁普及会会長）

私が栄区に棲み始め半世紀、振り返ってみると良い先輩、良い仲間に巡り合えた環境だったと思っています。私の栄区での囲碁との係りは、定年を迎えるころでしょうか、妻が「本郷台囲碁クラブ」を見つけてきてくれたことに始まります。その頃開催された、囲碁連盟主催の第 1 回区民大会に参加し酒井巧さんに負けた記憶が鮮明に残っています。

それから時間を見つけて碁会所に出向き須賀義夫さんに指導碁を打って頂きました。この碁会所は連盟の役員をやっていた方々も多く参加されており常連メンバーも 50 人近く居られました。はじめて大野栄さんに打ってもらえた時は緊張で手が震えたのを記憶しています。この碁会所で教えられていた木村陽弘さんに指導頂いたのもこの頃でした。囲碁では清水昭雄さんや市田勝一さんが良いライバルでした。

その後、連盟の役員交代の折、市田氏から勧誘を受け幹事になりました。当時の幹事会では、会員数が増えないことと、区内への普及活動が進んでいないことが議題の一つでした。この年の秋、栄区囲碁普及会が発足し、普及会との連絡をよくするため副会長職に役員を連盟から送り出すことが決まり新藤昭二さんが就きました。私は鶴田会長から請われて野七里小学校のはまっ子スクールの囲碁のお手伝いに行くことになり、これは野七里小が廃校になるまで続きました。その後、本中教室が出来るとインストラクターとして参加させて頂きました。その頃の教室には立岡章さんや山田伊佐男さん、安田テイ子さん等も活躍されていました。

10 年余務めた連盟の幹事を退任後は道休氏や小田氏が中心に発行していた「さかえの石音」の編集メンバーに入れて頂き編集の手伝いをさせて頂きました。その後杉浦会長の退任を受け会長職に就かせて頂いたわけですが今振り返ってみると思いと行動は必ずしも一致せず、周りに迷惑をかけたことが多かったようです。

そして今故人になられた杉浦次利、田沼秀明、橋本侃氏、負けてベソをかいた生徒さん、等々懐かしく思い出しています。

この30年余の囲碁活動は引っ込み思案だった私を人前に押し出してくれた活動でした。一緒に活動をしているインストラクター、はまっ子やキッズクラブのチーフ、学校のクラブ活動の先生、鎌倉教室の役員、碁会所の人達、区役所や地区センター等の職員の方々、熱心な生徒さん、のお蔭で今の私があると思っています。そしてもうしばらく元気に活動を続けさせていただきたいと考えています。

「栄区囲碁普及会20周年によせて」

関口　正俊（第２代栄区囲碁普及会会長）

栄区囲碁普及会創立 20 周年おめでとうございます。顧みれば市田さん（故人）、佐野さん、植田さんらと語らい初代会長鶴田さんの後を受け、3代会長の杉浦さん（故人）に引き継ぐ6年間会長を務め、今に至る囲碁教室や楽碁会を立ち上げました。

囲碁の実力はさほどではないのですが、初心者を指導する普及活動は出来るのではないかと日本棋院普及指導員のライセンスを取得し、40 代の頃から活動してきました。

1998 年縁あって栄区に転居し囲碁人口の多さに驚き、組織的な普及活動が出来るのではないかと一も二もなく引き受けたのです。当時は『ヒカルの碁』の影響もあって子ども達の間で囲碁ブームが起こっていたことや学校 5 日制が始まり土曜日の活用が課題となり、沢山の子ども達が囲碁教室に通い大人の参加も相まって教室がどんどん増えていきました。

爾来 20 年、ネットの普及や AI の出現により囲碁の環境も様変わりしました。スマホで手軽に囲碁が打てるようになり、学習方法も格段に進歩しました。さらにコロナ禍が追い打ちをかけ対面指導が困難になりました。これからの普及活動はこうした社会情勢の変化に応じ変わらざるを得ないのが現実となっています。

日本棋院でも各種の講座がネットで開催されるなど模索が始まっています。現場での普及活動がどのようなものになるのか答えは未知数ですが、ヒューマンコミニュケーションツールとしての囲碁を大切にしていきたいと思う今日この頃です。

囲碁との出会いから会長になるまで

三箇　豊（第５代栄区囲碁普及会会長）

囲碁との出会いは大学時代に京都で下宿していた時、近くに下宿していた高校の同級生に教わって、お遊びで囲碁を打ったのが囲碁との出会いです。会社に入って囲碁部があったので囲碁部に入り、５、６年は結構熱心にやった結果、会社の囲碁部に指導に来ていた三王九段から二段の免状をもらいました。それ以降は会社の仕事が忙しくなり、日曜日の NHK の囲碁番組を見るくらいでした。四十代に替わった会社に囲碁部がなかったので、ますます縁遠くなりました。

１９８３年頃栄区（当時戸塚区）に引っ越してきたが、家の横にテニスクラブがあったので、テニスをしていましたが、そこのクラブハウスで時々かなり強い伊藤さんという人に打ってもらっていました。２０１１年定年で退職して栄区囲碁普及会に入会するまでは栄区で囲碁が盛んに行われていることは全く知りませんでした。

定年退職して何ヶ月後かに同じテニスクラブに入っておられた山中正巳氏に上郷地区センターで囲碁教室をやっているので来ないかと誘われたのが栄区囲碁普及会を知るきっかけであった。それ以降は普及会の会計をやり、総務担当のサポート（PC を使って名簿作成等）、ホームページ開設・運営のサポート等をしている内にいつの間にか会長を頼まれる羽目になった。

栄区囲碁普及会に入って良かったことは教室で受講生に教えることで棋力向上することができたことです。受講生に教えるためには、事前に教える内容を自分なりに腑に落としておかなければなりません。それが棋力向上に役に立ったと思います。また、栄区で大きな囲碁大会が行われていることを初めて知り、その大会に出るようになり、その中で２子強くなり四段で出場できるようになったことです。

現在栄区だけでなく近隣の区でもかなり高齢化が進んでいて、囲碁普及活動をしていただける方が段々と少なくなっているのが実情です。また、コロナ禍もあって栄区囲碁普及会の受講生の人数も厳しい状況ですが、広報活動をより積極的に行い子供・シニア世代だけでなく現役世代にも粘り強くアプローチしていきたいと思います。

夫の思い出

杉浦　尚子（故杉浦次利栄区囲碁普及会会長夫人）

夫は地域でのボランティア活動を始める目的で、定年退職を機に囲碁の指導者登録をしました。思い起こせばそれがきっかけで囲碁好きの地域の方々と出会い話し合う新しいふれあいが始まりました。珍しく子供向けのテレビ番組を見ていたり、私にはご隠居さんの認識だった囲碁をメンタルなスポーツであるのだと教えてくれたり、囲碁関係の歴史の本を買ってきたりと変化がありました。

その後、囲碁・将棋や読書が好きでいつも静かに盤面に向かっていた夫は出かけていく回数が増し、戻るとパソコンに向かっている時間が長くなりました。普及会の設立に関わり始めた頃から長電話が多くなり、会計を引き受けた頃からは夜遅くまで伝票や書類の整理をしていました。だんだん会の活動が広がって組織が出来上がってきた頃と思いますが、初心者向けの指導のための特別な盤を手作りしていたり、碁石を磨いていたり、いろいろ工夫して試作していました。

水曜教室、土曜教室、日曜は本中教室、午後はアミー碁の指導に出掛けるようになり、午前中に出ると夕方遅くなるまで戻らない日々が続きました。会長になった頃からは教室以外の外国人向けの大会や地域の行事への参加、子供とおとなの囲碁大会の準備やお世話等々、出掛けていることが多く殆ど家にはいませんでした。

体力的にも、責任感の重圧からも無理したのでしょうか、家にいる時は横になっていることが多くなり、会長を辞してから病気勝ちになりました。入退院を重ねて自宅で酸素吸入する日々でした。好きな囲碁の手筋を考えるのが気分転換になるのか、いつもポケットに詰碁の小冊子を入れていて、ちょっとの待ち時間にも取り出して見て、毎月碁の雑誌が届くのを楽しみにしていました。

普及会が２０周年を迎えられたことに、夫と共に感謝しております。そして、普及会の益々の発展を祈念しています。

肥塚淳次氏は今年(2021年)9月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。故肥塚淳次氏は栄区囲碁普及会の教室での囲碁指導、認定会の審判長等多方面で囲碁普及に大きな貢献をされました。故肥塚淳次氏の創立15周年記念特集号に掲載された栄区囲碁普及会への提言は現在でも有益な内容で再掲載して追悼いたします。

栄区囲碁普及会の今後（創立15 周年を迎えて）

肥塚　淳次（元日本棋院横浜栄支部支部長）

栄区囲碁普及会は囲碁の普及活動で多くの実績を上げてきました。 これは、神奈川県囲碁界は無論のこと、日本棋院も認めるところです。今後更に継続発展させていくために、これまでの活動を振り返り、これからの方向を整理できればとまとめてみました。

1 他の団体にない栄区囲碁普及会の強みは数多くのインストラクターのマンパワーです。

私も平成19 年以来、神奈川県の囲碁界を眺めてきましたが他に例を見ない特筆すべき力です。囲碁普及活動には手間がかかります。100 名以上のインストラクターのパワーを維持、発展させていくことが不可欠です。教室のインストラクターにすることは重要な施策ですがこれだけでは不十分で、高段者も仲間に引き入れることも必要です。幅広い人脈を平素から大切にすべきです。又女性インストラクターももっと増やすべきでしょう。更にインストラクター同士の交流を深め、絆を強くすることも重要な日常活動でしょう。

2 卒業生を中心とする楽碁会活動の推進も重要な普及活動の一環です。

教室だけでは実戦不足は避 けがたく、囲碁教室の補完的な役割としても充実させていく必要があります。

3 囲碁情報紙「さかえの石音」の発行等のPR活動も地味だが大切です。

栄区の囲碁愛好家に囲碁普及活動を発信し、新たな囲碁ファンの開拓につなげていけたらと思います。意欲のある生徒さんを集めることも重要で、これにより教室も活性化しインストラクターも成長できます。

4 他の囲碁団体との共存、協調、協力

栄区には栄区囲碁連盟、日本棋院横浜栄支部、楽碁会等の囲碁団体があり、近年お互いに棲み分け好ましい協調体制が築かれつつあります。特に入門、初心者、級位者への普及活動は普及会の分担するところであり、これからも、棲み分け協調していくことが大切です。「組織的には少しずつ異なる目的を持った団体が共存、協調して行く体制」を維持していくのが良いと考えます。

5 子供への普及活動には親の参画、行政との連携が必要

子供達への普及活動は長期的な視点に立って重要な課題です。 普及会の原点である学校訪問による普及活動は「入口活動」としての役割を果たしているがそれだけでは十分な流れを創り出せていない。今、教育界では囲碁の学校教育の導入が少しずつではあるが進んでいます。これは囲碁が成長過程の教育に良いと云う認識が高まっているためと考えられています。例えば新宿子供囲碁教室（藤沢一就八段主宰）は15人でスタートした教室が数年前から200名を超える大教室に成長しています。（NHK 囲碁講座テキスト2016.2 号）

大学では25校、小中高校では140 校（正課37校）に導入されており、東京が中心で、残念ながら神奈川にはまだ波及していません。又、子供達への囲碁の普及を進めて行くためには親の理解が不可欠です。鎌倉子供囲碁大会（近藤さん、木村さん）はここ数年で大きな大会に成長しましたが当初から親御さんを巻き込んでいました。またスタートは地域の公民館毎の子供囲碁教室と聞いています。 三浦の子供教室（中山さん、中さん）も盛んで、ここは行政と結びついて運営していると聞いています。我々も少し長期的な視点にたって、子供に対する普及活動を立案企画する話し合いを立ち上げる必要がある。その中で現状の見直しを含めて、将来に対する柔軟な対応を模索すべきでしょう。

＜七十の手習い＞

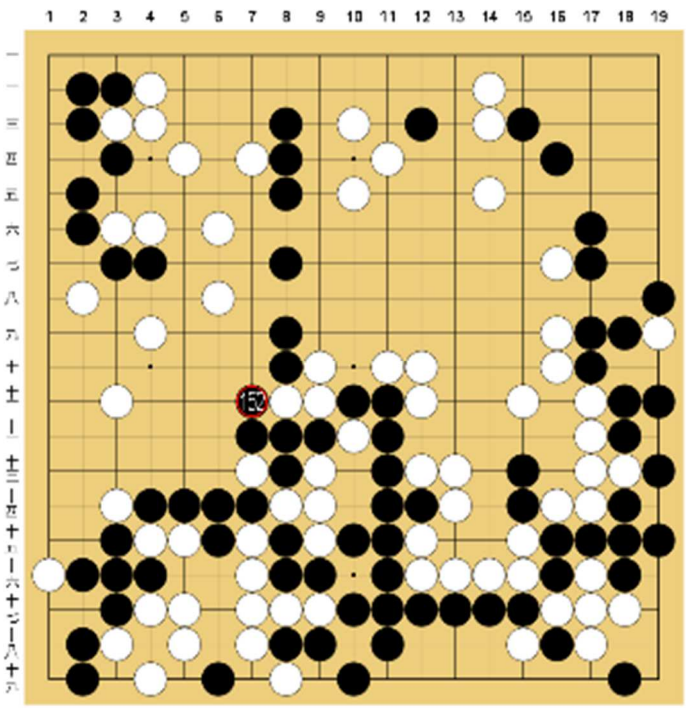
平野　秀一（上郷金曜教室受講生）

碁は大学時代に、友人から教えられて始めました。その後社会人になり、時たま同期の寮仲間と打っていましたが、退寮してからはご無沙汰しており、定年後の毎日が日曜日の生活の中でこの教室の存在を知り、入会しました。仮５級から始めて、その年の夏に３級試験に受かりましたが、冬の初段への挑戦は残念ながら失敗に終わり、今に至っています。

囲碁は打って楽しく、見ても楽しく打っている時にチャチャを入れられるのも素人碁の面白さです。戦いの後の短い感想会で先輩方と好き勝手を云い合うのも楽しい。

負けた時の方が口数が多くなるのは、愚痴を言って碁の鬱憤を晴らしたいからでしょうか。

有段者の方の対局解説は大変参考になります。実戦に即した説明で攻め方、守り方、急所など的確に指摘頂けるのは大変役立ちます。一度だけですが、「この手が打てれば有段者だね」と仰って頂けたのが今も励みになっています。これからも先輩の方々と楽しい碁を打ちたいものです。



プロ棋士（黒）と世界で最も強いと言われるＡＩ囲碁ソフト（白）の対局でＡＩ囲碁ソフトが投了した場面の棋譜

4. 栄区囲碁普及会に貢献された方々への感謝

（1）感謝の言葉

2021年(令和3年)10月、栄区囲碁普及会は創立20週年を迎えました。
創立当時より今日に至るまで地域の皆様方、とりわけ、栄区役所、各地区センターの関係者各位、日本棋院本院及び横浜栄支部、栄区囲碁連盟、楽碁会各位のご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

この節目の年に際し、子供への囲碁普及の為に大いなる意欲と情熱をもって会の創立に尽力された方々、また、その考え方、方針に賛同し志を受け継ぎ会の発展に寄与された方々の名をここに記しました。

今後の5年、10年先を見据えて、囲碁文化の発展と普及の為に栄区囲碁普及会はその役割を果たして行きたいと思っております。

（2）栄区囲碁普及会に貢献された方々の名簿

栄区囲碁普及会の歴代会員名簿　　（五十音順）

NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員
1	青井　茂樹	＊	26	伊藤　眞砂総		51	大橋　章		76	加藤　加代子	＊
2	青柳　宏	＊	27	伊藤　正彦	＊	52	大橋　時男		77	加藤　宗平	
3	秋山　忠		28	犬飼　恒彦	＊	53	大場　正幸		78	鎌倉　誠	
4	秋山　裕男		29	井上　宏	＊	54	大森　泰史	＊	79	川崎　和幸	＊
5	秋山　正昭	＊	30	猪又　伸夫		55	小笠原　宏之		80	川名　敏靖	
6	浅井　廸子		31	今井　憲三		56	岡田　克司		81	川部　親司	
7	浅野　豊春		32	今井　敏勝	＊	57	岡野　正男		82	川村　達夫	＊
8	阿部　邦英	＊	33	今岡　哲也	＊	58	沖田　正知		83	岸川　津弥子	＊
9	阿部　志郎	＊	34	今村　真吾	＊	59	奥山　良平	＊	84	北島　耕一	＊
10	阿部　信二	＊	35	岩崎　美行		60	尾崎　秀子	＊	85	北原　文男	＊
11	荒井　久男		36	岩崎　圭晴	＊	61	小沢　義雄		86	木村　弘利	
12	有本　恵美子	＊	37	岩田　繁雄		62	小田　武史	＊	87	北川　昌子	＊
13	安藤　朝巳		38	岩見　錦吾		63	小谷　和雄		88	興野　富男	＊
14	飯田　吾朗		39	石見　喜久		64	乙川　宏	＊	89	国吉　房成	
15	飯塚　幸夫		40	宇井　光政		65	小野　葉	＊	90	窪川　満	＊
16	池田　茂	＊	41	植田　有咲		66	小野　健一		91	久保　発喜	
17	池田　洋子	＊	42	植田　照子		67	小野寺　洋一		92	小池　輝	
18	石井　兼政		43	植田　米男	＊	68	小原　敬雄		93	小泉　進	＊
19	石川　隆	＊	44	臼井　道雄		69	小尾　優三	＊	94	肥塚　淳次	
20	石川　務	＊	45	海野　盾夫		70	恩田　寛司		95	児玉　崇	＊
21	石川　求	＊	46	遠藤　美子	＊	71	河西　良文	＊	96	小西　直人	
22	石田　郁夫	＊	47	生出　二三明		72	笠原　高男	＊	97	小林　清	
23	石附　輝己		48	大石　勝利		73	梶浦　政男	＊	98	小林　仁実	
24	石間　隆		49	太田　研一		74	片岡　保人		99	駒木　亮三	＊
25	市田　勝一		50	大貫　孝男		75	片山　貞道	＊	100	権正　茂	＊

(注)創立から間もない時期に退会した会員は名簿に記載されていない可能性があります

栄区囲碁普及会の歴代会員名簿(続き)

NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員
101	近藤　昌之		126	鴫原　敬之助		151	須藤　忠和		176	田中　康弘	＊
102	近藤　有		127	宍戸　隆介	＊	152	寿山　直樹		177	谷　昇	
103	齊藤　明徳	＊	128	柴田　満	＊	153	関口　正俊		178	谷淵　邦彦	＊
104	斉藤　勇		129	柴野　博	＊	154	瀬間　明海		179	谷山　浩敏	＊
105	斉藤　忠雄		130	嶋田　静子		155	田井　道夫	＊	180	田沼　秀明	
106	斎藤　次男		131	島村　和典	＊	156	高尾　典生	＊	181	田原　長生	
107	佐伯　秀紀		132	清水　昭雄		157	高木　友三郎		182	角田　定夫	
108	酒井　巧		133	清水　昭		158	高島　修男	＊	183	鶴岡　昭充	
109	阪井　忠男	＊	134	清水　邦行		159	高野　健	＊	184	鶴田　郁夫	
110	坂倉　節子	＊	135	清水　広中		160	高橋　清		185	道休　俊和	＊
111	坂田　保夫	＊	136	白神　利昭		161	高橋　伍一		186	徳江　淳	＊
112	桜井　龍男	＊	137	白土　豊		162	高橋　定夫		187	長井　登	
113	佐々木　隆造	＊	138	新地　光明		163	高橋　卓雄	＊	188	中澤　國夫	＊
114	貞野　泰彦	＊	139	新藤　昭二		164	高橋　利夫		189	長嶋　辰夫	＊
115	佐藤　中勇	＊	140	神野　奉臣	＊	165	瀧川　智志		190	中島　史稜	
116	佐藤　七郎	＊	141	須江　有道	＊	166	滝沢　隆	＊	191	中島　義種	＊
117	佐藤　俊夫	＊	142	須賀　義夫		167	瀧本　幸明	＊	192	中田　利正	
118	佐藤　寿子	＊	143	杉浦　次利		168	滝本　武洋		193	中西　和豊	
119	佐藤　友廣	＊	144	杉田　光弘	＊	169	武田　和久	＊	194	中西　忠行	
120	佐藤　春雄		145	鈴木　悦四		170	立岡　章		195	仲西　聰夫	
121	佐野　武彦	＊	146	鈴木　武弘		171	田中　克彦		196	中西　正也	
122	佐野　嘉男	＊	147	鈴木　敏夫		172	田中　建一	＊	197	中野　修	＊
123	澤田　珪子	＊	148	鈴木　　登		173	田中　晴夫	＊	198	中村　光良	＊
124	三箇　豊	＊	149	鈴木　勇作	＊	174	田中　均	＊	199	成瀬　重人	
125	塩井　健四郎		150	鈴東　正睦	＊	175	田中　雅仁	＊	200	西山　　満	

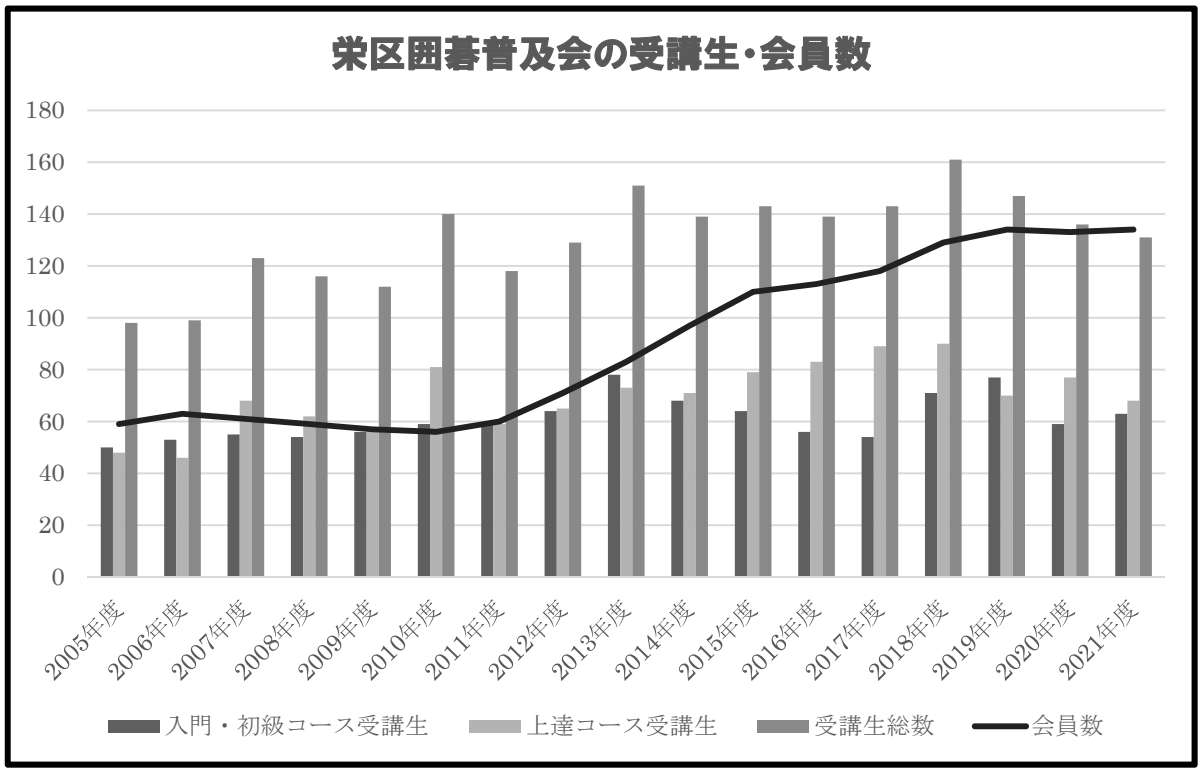
NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員	NO.	氏名	現会員
201	新田　　豊		226	藤田　重雄		251	丸山　充夫		276	本室　久直	
202	二村　忠岑		227	藤田　剛	＊	252	丸山　五治	＊	277	森　靖雄	
203	野田　稲夫	＊	228	藤田　亨	＊	253	三浦　榮一		278	森　　亨	
204	荻谷　禎治		229	藤田　光男		254	三浦　武久	＊	279	森安　恒夫	＊
205	橋本　侃		230	鉾碕　宗夫	＊	255	峰岸　市太郎		280	安田　昭治	＊
206	橋本　勝		231	堀田　昭司	＊	256	三間　修司	＊	281	安田　テイ子	
207	長谷川　清一		232	堀江　勇		257	御厩　元宣	＊	282	簗瀬　俊雄	
208	羽田　詞明		233	本城　勲	＊	258	三室　勉	＊	283	山岡　重徳	
209	浜田　幸一		234	本多　孝之	＊	259	宮川　誠	＊	284	山岸　幸男	
210	早川　五郎		235	本間　勲弘	＊	260	宮城　一郎		285	山崎　正幸	＊
211	林　幸一	＊	236	本間　道夫		261	宮島　誠	＊	286	山下　信矢	
212	原田　幸男		237	前川　良知		262	宮西　明志		287	山田　伊佐男	
213	半田　哲也	＊	238	前野　昌彦	＊	263	宮村　薫	＊	288	山田　竹彦	
214	東　寛二郎	＊	239	牧野　博	＊	264	三由　洋子		289	山田　文雄	
215	日野　祐一		240	正田　倶基	＊	265	迎田　南海男		290	山中　正巳	＊
216	平田　建二		241	間嶋　照子	＊	266	務川　奏方	＊	291	山吹　豊喜	
217	平野　源一	＊	242	増渕　節子	＊	267	武藤　　修		292	湯澤　宏行	
218	廣本　陽子	＊	243	間世田　三郎		268	武藤　信幸		293	横澤　裕彦	
219	樋渡　洋一		244	松井　重暁		269	武藤　守		294	横地　正厚	
220	深田　勝子	＊	245	松井　康博		270	村上　信男	＊	295	吉井　祐享	
221	深堀　修		246	松浦　進		271	村田　憲司	＊	296	吉田　忠夫	＊
222	福島　収		247	松尾　定二		272	村田　春海		297	吉野　照明	
223	福田　光雄		248	松浦　一	＊	273	村松　栄治		298	吉本与志雄	
224	福山　佳子		249	間中　和子	＊	274	村山　喜三郎	＊	299	米　勲	
225	藤井　誠		250	間中　弘高		275	目黒　久夫	＊	300	若山　博之	＊
									301	渡辺　栄治	
									302	渡辺　信夫	
									303	渡辺　紘	＊
									304	渡辺　洋吉	

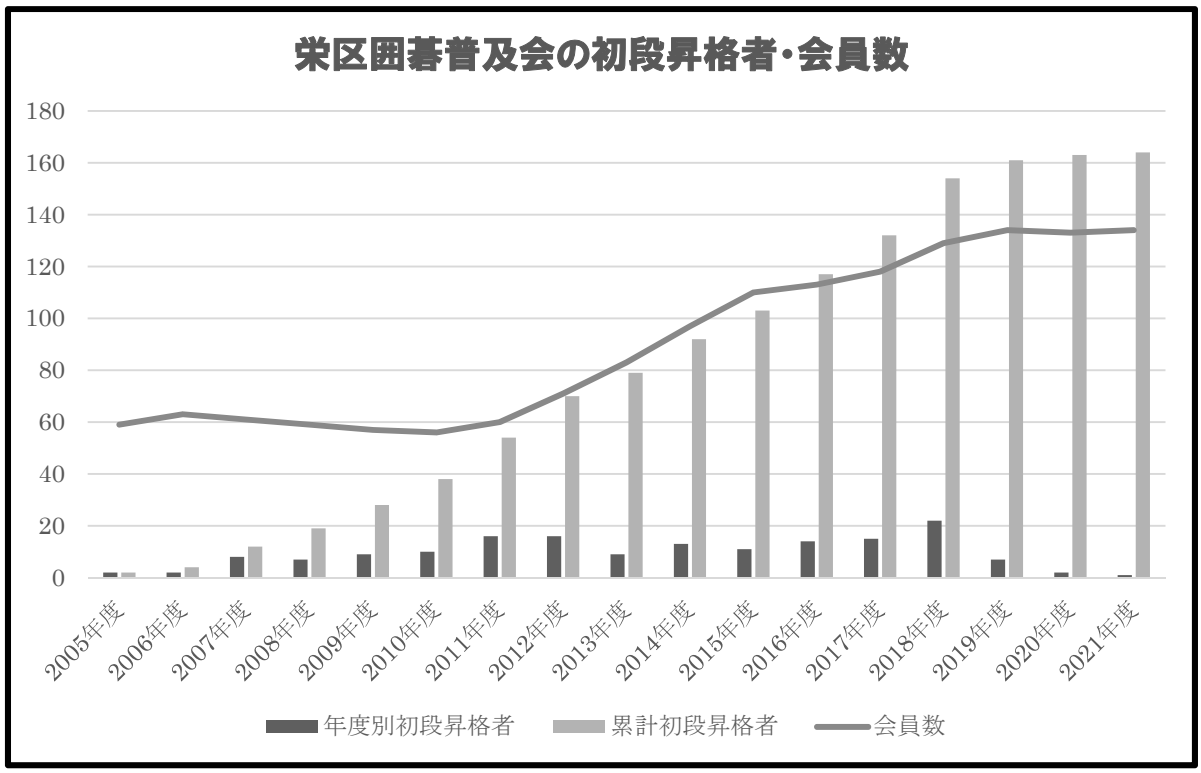
【資料編】

１．受講生・初段昇格者・会員の人数　・・・・・　１
２．囲碁教室の開設　・・・・・　２
３．子供への普及活動　・・・・・　３
４．役員一覧　・・・・・　４
５．教室チーフ一覧　・・・・・　６
６．組織図　・・・・・　７
７．栄区囲碁普及会の掲載記事　・・・・・　８

1. 受講生・初段昇格者・会員の人数

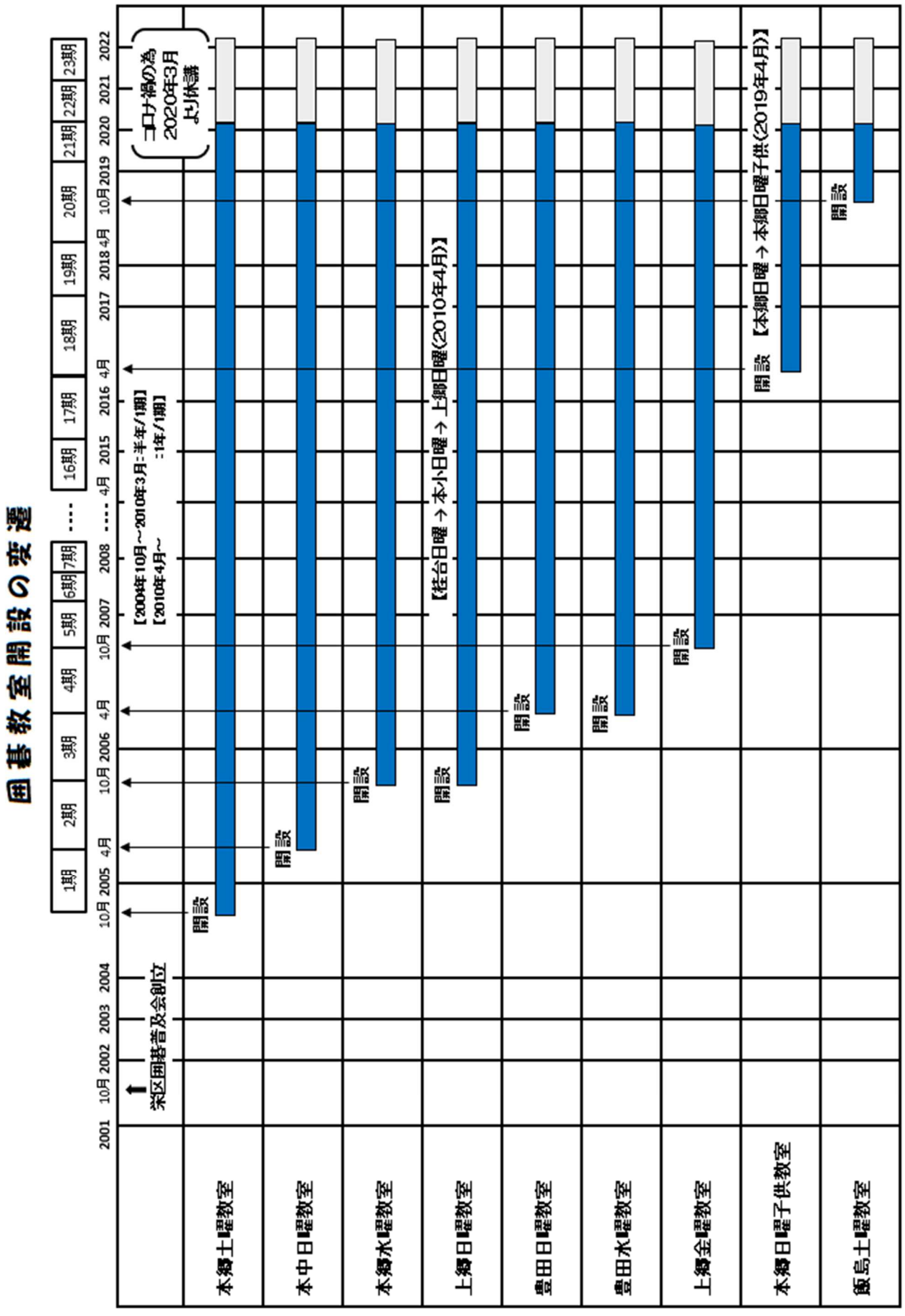
2004年（平成16年）10月に本郷土曜教室が開講して以降の栄区囲碁普及会の受講生・初段昇格者・会員数をグラフで示す。受講生、初段昇級者及び会員は順調に増えていたが、コロナ禍のためこの2年、受講生、初段昇格者数は減少し、会員数は停滞している。





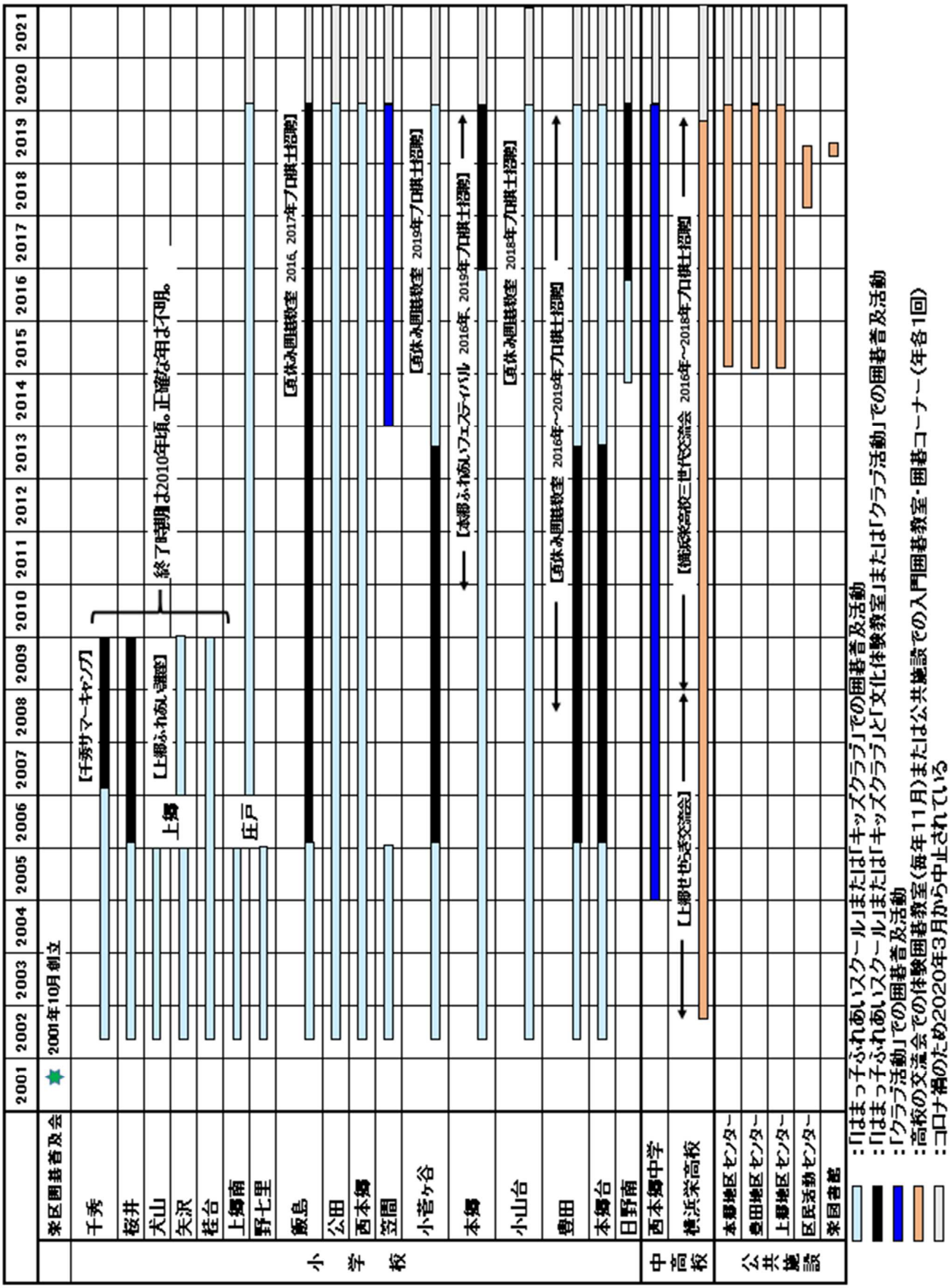
2. 囲碁教室の開設

栄区囲碁普及会の囲碁教室開設の変遷を以下に示す。



3. 子供への囲碁普及活動

栄区囲碁普及会の子供への囲碁普及活動の変遷を以下に示す。



4. 役員一覧

創立以降の栄区囲碁普及会の役員を示す。

栄区囲碁普及会役員一覧

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2007年度	2009年度
会長	鶴田　郁夫	関口　正俊	関口　正俊	関口　正俊	関口　正俊	杉浦　次利
副会長	市田　勝一 関口　正俊	植田　米男 道休　俊和 新藤　昭二	植田　米男 道休　俊和 新藤　昭二	植田　米男 道休　俊和 新藤　昭二	植田　米男 道休　俊和 臼井　道雄	植田　米男 横地正厚 中村　光良 石附　輝己
会計	鶴田　郁夫	杉浦　次利	杉浦　次利	杉浦　次利	杉浦　次利	佐藤　中勇
会計監査	佐野　嘉男	市田　勝一	市田　勝一	村山喜三郎	村山喜三郎	村山喜三郎
幹事		橋本　侃 松井　重暁 安田テイ子 臼井　道雄	橋本　侃 松井　重暁 安田テイ子 中村　光良 田中　建一 立岡　章 臼井　道雄	橋本　侃 松井　重暁 安田テイ子 中村　光良 田中　建一 立岡　章 臼井　道雄 坂田　保夫 国吉　房成 横地　正厚 藤田　重雄 伊藤　正彦 酒井　巧	橋本　侃 伊藤　正彦 肥塚　淳次 坂田　保夫 横地正厚 牧野　博 田中　建一 木村　弘利 松井　重暁 安田テイ子 山田伊佐男 中島　史稜 藤田　重雄 中村　光良	伊藤　正彦 小田　武史 臼井　道雄 肥塚　淳次 岸川津弥子 藤田　重雄 坂田　保夫 道休　俊和 酒井　巧 橋本　侃 中島　史稜 田中　建一 牧野　博 山田伊佐男 山中　正巳 青井　茂樹 滝本　孝明
名誉会長						関口　正俊
顧問			佐野　嘉男	佐野　嘉男	佐野　嘉男	久保　発喜

	2010年度	2011年度	2012年度		2013年度	
会長	杉浦　次利	杉浦　次利	杉浦　次利		杉浦　次利	
副会長	植田　米男 横地正厚 植田　米男 中村　光良 石附　輝己	田中　建一 青井　茂樹 植田　米男 小田　武史 山中　正巳 石附　輝己	田中　建一 青井　茂樹 植田　米男 小田　武史 山中　正巳 石附　輝己	総務 イベント 庶務・渉外 広報 上達 入門初級及び子供への普及	田中　建一 青井　茂樹 植田　米男 小田　武史 山中　正巳 石附　輝己	総務 イベント 庶務・渉外 広報 上達 入門初級及び子供への普及
会計	佐藤　中勇	佐藤　中勇	佐藤　中勇		三箇　豊	
会計監査	村山喜三郎	石川　求	石川　求		石川　求	
幹事	伊藤　正彦 小田　武史 臼井　道雄 肥塚　淳次 岸川津弥子 藤田　重雄 坂田　保夫 道休　俊和 酒井　巧 橋本　侃 中島　史稜 田中　建一 牧野　博 山田伊佐男 山中　正巳 青井　茂樹 滝本　孝明	伊藤　正彦 生出二三明 臼井　道雄 肥塚　淳次 岸川津弥子 興野　富男 坂田　保夫 道休　俊和 酒井　巧 橋本　侃 中村　光良 村山喜三郎 牧野　博 山田伊佐男	伊藤　正彦 生出二三明 臼井　道雄 肥塚　淳次 岸川津弥子 興野　富男 坂田　保夫 道休　俊和 酒井　巧 橋本　侃 中村　光良 村山喜三郎 牧野　博 山田伊佐男		伊藤　正彦 今井　憲三 臼井　道雄 川崎　和幸 岸川津弥子 興野　富男 坂田　保夫 道休　俊和 酒井　巧 佐藤　中勇 中村　光良 村山喜三郎 村田　憲司 村田　春海 森安　恒夫 谷淵　邦彦 牧野　博 横澤　裕彦	
名誉会長	関口　正俊	関口　正俊	関口　正俊		関口　正俊	
顧問	久保　発喜	久保　発喜	久保　発喜		久保　発喜	

栄区囲碁普及会役員一覧（続き）

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
会長	杉浦　次利		牧野　博		牧野　博		牧野　博	
副会長	田中　建一	総務	田中　建一	総務	田中　建一	子供への普及	田中　建一	子供への普及
	青井　茂樹	イベント	青井　茂樹	イベント	青井　茂樹	イベント	青井　茂樹	イベント
	植田　米男	庶務・渉外	植田　米男	庶務・渉外	植田　米男	庶務・渉外	植田　米男	庶務・渉外
	小田　武史	広報	小田　武史	広報	小田　武史	広報	坂田　保夫	上達
	山中　正巳	上達	山中　正巳	上達	佐藤　中勇	上達	佐藤　中勇	上達認定会
	石附　輝己	入門初級及び	森安　恒夫	入門初級	森安　恒夫	入門初級	三箇　豊	総務・HP
		子供への普及	今井　憲三	子供への普及	山中　正巳	総務	今岡　哲也	入門初級
					三箇　豊	総務・HP	山中　正巳	総務
会計	三箇　豊		三箇　豊	副会長補佐	三箇　豊		三箇　豊	
会計監査	石川　求		今岡　哲也		今岡　哲也		杉田　光弘	
幹事	伊藤　正彦		伊藤　正彦		伊藤　正彦		阿部　邦英	副会長補佐
	今井　憲三		今岡　哲也	副会長補佐	今岡　哲也	副会長補佐	飯田　吾朗	
	臼井　道雄		飯田　吾朗	副会長補佐	飯田　吾朗	副会長補佐	岡田　克司	
	川崎　和幸		川崎　和幸		川崎　和幸		小田　武史	
	岸川津弥子		岸川津弥子		岸川津弥子		岸川津弥子	
	今岡　哲也		肥塚　淳次		肥塚　淳次		佐野　武彦	
	坂田　保夫		坂田　保夫		坂田　保夫		澤田　珪子	
	道休　俊和		道休　俊和		道休　俊和		道休　俊和	
	酒井　巧		中澤　国夫		中澤　国夫	副会長補佐	中澤　国夫	副会長補佐
	佐藤　中勇		中西　和豊	副会長補佐	中西　和豊	副会長補佐	中西　和豊	副会長補佐
	中村　光良		中村　光良		中村　光良		中村　光良	
	村山喜三郎		佐藤　中勇	副会長補佐	前野　昌彦		前野　昌彦	
	村田　憲司		三浦　武久	副会長補佐	三浦　武久	副会長補佐	三浦　武久	副会長補佐
	村田　春海		村田　春海		村田　春海		宮川　誠	副会長補佐
	森安　恒夫		渡辺　紘	副会長補佐	渡辺　紘	副会長補佐	渡辺　紘	副会長補佐
	谷淵　邦彦		臼井　道雄		中田　利正		山﨑　正幸	副会長補佐
	牧野　博		生出　二三明		宮川　誠		間嶋　照子	
			酒井　巧					
名誉会長	関口　正俊		関口　正俊		関口　正俊			
顧問	三間　修司		三間　修司		三間　修司		三間　修司	
			杉浦　次利		杉浦　次利		佐野　嘉男	

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度	
会長	三箇　豊	兼HP担当	三箇　豊	兼HP担当	三箇　豊	兼HP担当	三箇　豊	兼HP担当
副会長	阿部　邦英	上達コース	阿部　邦英	上達コース	阿部　邦英	上達コース	阿部　邦英	上達コース
	青井　茂樹	イベント	青井　茂樹	イベント	青井　茂樹	イベント	田井　道夫	イベント
	宮川　誠	庶務・渉外	宮川　誠	庶務・渉外	宮川　誠	庶務・渉外	宮川　誠	庶務・渉外
	渡辺　紘	広報	渡辺　紘	広報	渡辺　紘	広報	渡辺　紘	広報
	佐藤　中勇	総務	佐藤　中勇	総務	佐藤　中勇	総務	佐藤　中勇	総務
	中澤　國夫	子供への普及	田中　建一	子供への普及	田中　建一	子供への普及	田中　建一	子供への普及
	今岡　哲也	入門初級	今岡　哲也	入門初級	今岡　哲也	入門初級	林　幸一	入門初級
会計	今井　敏勝		今井　敏勝		阿部　邦英		阿部　邦英	
会計監査	杉田　光弘		杉田　光弘		田中　均		田中　均	
幹事	山中　正巳	副会長補佐	山中　正巳	副会長補佐	北島　耕一	副会長補佐	北島　耕一	副会長補佐
	本間　勲弘		本間　勲弘		目黒　久夫	副会長補佐	目黒　久夫	副会長補佐
	植田　米男	副会長補佐	植田　米男	副会長補佐	三浦　武久	副会長補佐	三浦　武久	副会長補佐
	飯田　吾朗		飯田　吾朗		本城　勲	副会長補佐	本城　勲	副会長補佐
	三浦　武久	副会長補佐	三浦　武久	副会長補佐	林　幸一	副会長補佐	今岡　哲也	副会長補佐
	小田　武史		中澤　國夫		石田　郁夫	副会長補佐	石田　郁夫	副会長補佐
	中村　光良		北原　文男		田井　道夫	副会長補佐	青井　茂樹	
	北島　耕一		北島　耕一		山中　正巳		山中　正巳	
	岡田　克司	副会長補佐	福嶋　収	副会長補佐	本間　勲弘		本間　勲弘	
	岸川　津弥子		岸川　津弥子		植田　米男		植田　米男	
	道休　俊和		道休　俊和		飯田　吾朗		飯田　吾朗	
	松浦　一		佐野　武彦		中澤　國夫		中澤　國夫	
	田中　建一	副会長補佐	澤田　珪子		北原　文男		北原　文男	
	佐野　武彦		中野　修		権正　茂		権正　茂	
	澤田　珪子		間嶋　照子		岸川　津弥子		道休　俊和	
	中野　修		坂田　保夫	副会長補佐	道休　俊和		佐野　武彦	
	間嶋　照子				佐野　武彦		中野　修	
	坂田　保夫	副会長補佐			中野　修			
名誉会長								
顧問	三間　修司		三間　修司		三間　修司		三間　修司	
	佐野　嘉男		佐野　嘉男		佐野　嘉男		佐野　嘉男	
	牧野　博		牧野　博		牧野　博		牧野　博	
			肥塚　淳次		肥塚　淳次		肥塚　淳次	

5．教室チーフ一覧

創立以降の栄区囲碁普及会の教室チーフを示す。

栄区囲碁普及会 歴代 教室チーフ名簿

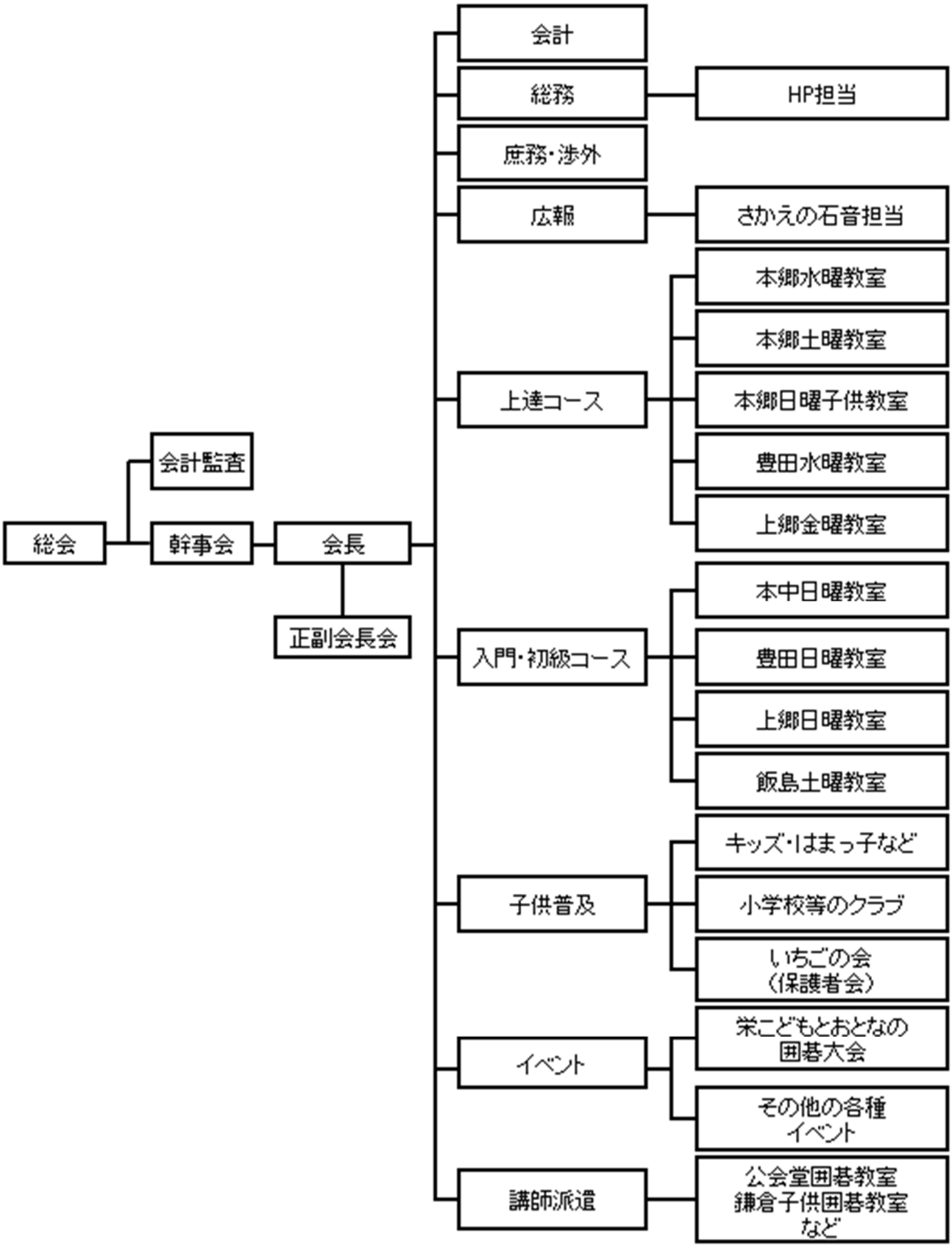
周年	西暦	和暦	上達コース					入門・初級コース			
			本郷土曜	本郷水曜	上郷金曜	豊田水曜	本郷日曜子供	本中日曜	上郷日曜＊	豊田日曜	飯島土曜
設立年月			H16/4	H17/10	H18/10	H18/4	H28/4	H17/4	H17/10	H18/4	H30/10
1	2002	平成 14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	2003	平成 15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	2004	平成 16	関口 正俊	—	—	—	—	—	—	—	—
4	2005	平成 17	植田 米男	杉浦 次利	—	—	—	道休 俊和	松浦 一	—	—
5	2006	平成 18	中村 光良	〃	植田 米男	山田伊佐男	—	〃	臼井道雄	関口 正俊	—
6	2007	平成 19	〃	〃	横地 正厚	〃	—	〃	〃	村山喜三郎	—
7	2008	平成 20	〃	〃	〃	石附 輝己	—	〃	〃	〃	—
8	2009	平成 21	〃	〃	〃	〃	—	牧野 博	〃	〃	—
9	2010	平成 22	〃	酒井 巧	〃	〃	—	〃	〃	〃	—
10	2011	平成 23	〃	〃	〃	〃	—	〃	〃	〃	—
11	2012	平成 24	〃	〃	石川 求	〃	—	〃	〃	今井 憲三	—
12	2013	平成 25	〃	〃	〃	〃	—	〃	今岡 哲也	森安 恒夫	—
13	2014	平成 26	〃	〃	〃	生出二三男	—	〃	〃	〃	—
14	2015	平成 27	〃	〃	〃	坂田 保夫	—	〃	〃	〃	—
15	2016	平成 28	〃	杉田 光弘	山中 正巳	〃	小田 武史	岸川 津弥子	〃	〃	—
16	2017	平成 29	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	岡田 克司	—
17	2018	平成 30	〃	〃	青井 茂樹	北島耕一	〃	〃	〃	〃	福嶋 収
18	2019	令和 元	北原 文男	〃	〃	〃	中澤 國夫	〃	〃	宮川 誠	牧野 博
19	2020	令和 2	〃	田中 均	〃	権正 茂	〃	〃	〃	〃	阿部 邦英
20	2021	令和 3	〃	〃	佐藤 中勇	〃	〃	渡辺 紘	林 幸一	〃	〃

＊平成２２年４月　本小日曜教室を上郷地区センターに移設し、上郷日曜教室に改称

6. 組織図

栄区囲碁普及会の組織図を示す。

栄区囲碁普及会組織図



7. 栄区囲碁普及会の掲載記事

2004年12月、第1回栄こどもとおとなの囲碁大会が「級位者だけの囲碁大会」として、日本棋院発行の『週刊碁』で紹介された。その後普及活動が進展、囲碁人口が増える中2010年、2018年の2回にわたって『神奈川新聞』で普及会を中心とした活動と成果が大きく報道された。また、2017年、日本棋院普及事業部から2ページにわたる寄稿の要請を受け、栄区囲碁4団体の成り立ちから活動まで掲載、全国囲碁ファンに発信した。

また、地元新聞の「タウンニュース」と「横浜タウン新聞」にも毎年栄区囲碁普及会の普及活動が掲載されている

新聞、雑誌及びテレビなどに取り上げられたことは、会員にとっては大きな歓びであり、その後の活動にも大きな励みになった。

神奈川新聞掲載記事ー1

2010年7月29日の記事

神奈川新聞　2010年（平成22年）7月29日　木曜日　A版 社会 （26）

囲碁王国へ厚い布石

愛好者増へ活躍

横浜市栄区で囲碁の愛好者が増えている。その推進力となっているのが区内に住むアマ有段者の有志が集う「栄区囲碁普及会」（杉浦次利会長）だ。現在の登録会員は88人。一つの市区町村で、普及活動を目的にしたこれほど大規模な市民団体は「全国でもあまり例がない」と日本棋院普及事業部は驚く。（山本　正）

栄区 普及会会員

普及会は、囲碁を通して子どもの心の育成やお年寄りの健康維持を図ろうと、2001年に設立された。会員たちは、年会費のほか交通費などの諸経費も自前というボランティア。区内の6小学校と、地区センターなどの公共施設7カ所で入門・初心者教室を開いている。定期的にカラー版の会報「さかえの石音」を刊行し、教室で学ぶ子どもたちの楽しそうな様子などが報じられている。

「自分がただ楽しむだけでなく、囲碁の素晴らしさを一人でも多くの人に教えたいというのが生きがいですね」と杉浦会長。

こうした活動の成果は着実に実り、区内の囲碁人口は近年大きく増えている。日本棋院横浜栄支部は、09年度に増加した会員数が全国2位の40人となり、ことし3月、日本棋院から表彰された。

年2回行われる横浜市各区対抗戦の区民大会では、級位者を対象としたC・Dクラスの出場者が少なく頭を痛めている区が多いが、栄区は毎回40～50人が参加し盛況だ。

7月19日には、栄区の普及会が毎年主催する「第6回栄こどもとおとなの囲碁大会」が栄公会堂で開かれた。同区の在住・在学・在勤者と、普及会の教室で学んだ級位者が対象。棋力別4クラスに分かれて4回戦対局し、成績により棋力が認定されるが、役員を含めて100人が参加するにぎわいぶり。女性十数人も交じり、3世代が交流する和やかな雰囲気で熱戦が繰り広げられた。会場の随所で、生徒の打ち碁を熱心に見守るインストラクターの姿が見られた。

父親と一緒に参加した横浜市立桜井小6年の谷遥晃君（5級、小学1年のころに学校のキッズクラブで普及会のインストラクターから碁を教わり「面白そうなので教室に通うようになった」という。「石を取るのが楽しい。お父さんにはいつも勝っています」と話していた。

審判長を務めた日本棋院横浜栄支部長の肥塚淳次さんは「これからまだまだ参加者の増加が予想されますが、区内に大きな施設がないので弱っています」と笑う。

園児から80歳まで、選手と役員を含めて約100人が参加した第6回栄こどもとおとなの囲碁大会　＝19日、栄公会堂

神奈川新聞掲載記事ー2

2018年7月4日の記事

神奈川新聞　2018年（平成30年）7月4日　水曜日

〝囲碁王国〟普及に力

栄区の4団体、連携し活動

「腕自慢よりも、底辺育てる」

横浜市栄区の囲碁団体の普及活動が注目されている。全国組織の日本棋院が「栄区囲碁普及会（会員294人）」に感謝状を贈呈するなど区内4団体が連携、性別や年齢層を超えた取り組みが奏功し、全国的に愛好者が微減する中でも増加している。同会は「腕自慢が競い合う場ではなく、底辺を育てる組織を目指す」との方針で、〝囲碁王国〟として地盤固めを進める。（吉田　太一）

普及会は昨年末に日本棋院から感謝状を贈られたのに続き、今年3月には当時会長だった牧野博さん（79）が「普及活動賞」に表彰された。牧野さんは「先輩方の積み重ねがあったからこそ。次の世代に引き継ぐことが必要」と話す。5月には会長を退任し新体制となり、幹部の平均年齢も5歳ほど若返った。

栄区では1986年に「栄区囲碁連盟」（140人）が発足したのを皮切りに、2001年に普及会、05年に「楽碁会」（250人）、07年に「日本棋院横浜栄支部」（247人）が相次いで設立。現在は4団体とも企画運営全てを ボランティアで支える。

普及活動の中心を担うのは普及会だ。最初に手掛けたのは、発足当初に始めた区内小学校への講師派遣。保護者の理解が欠かせないと、昨年4月には保護者の会も設立した。子ども対象の囲碁大会も多彩に開き、鎌倉子供囲碁教室（鎌倉市）との交流は10年目になる。

牧野さんは「囲碁愛好者の裾野が広がり、講師も次々に育つ好循環が生まれている」と笑顔を見せる。

04年には年齢層を問わない囲碁教室を開講し、定年退職者や主婦の会員も増加。級位認定大会も開き、段位取得者が後進指導に当たる。囲碁川柳も募集し、「盆近し　孫を待ちつつ　石みがく」などの作品を集めた冊子も作った。

情報誌やホームページも作成し、PRにも力を入れる。

複数の区内囲碁団体に所属する人も多い。楽碁会は、普及会による囲碁教室の卒業者向けに発足。横浜栄支部は日本棋院の全国613支部中で会員数が三重支部に次ぐ規模を誇り（17年10月末現在）、会員増加率も高いという。

横浜栄支部は昨年10月に10周年を迎え、支部長の佐野嘉男さん（81）が中心となり、栄区囲碁界の歩みをまとめた記念誌「『囲碁王国』10年の足跡」を作成した。佐野さんは「他地区でも活動が広がり、囲碁ファンが増えることを願っている」と期待する。

大勢の子どもが参加して行われる囲碁大会
＝2016年7月、横浜市栄区（栄区囲碁普及会提供）

碁ワールド掲載記事－1

2017年2月号の記事 102ページ

日本棋院支部と会員のコーナー

全国支部便り◯

◉会員数全国2位

——横浜栄支部

私達、横浜栄支部が拠点とする横浜市栄区は鎌倉市に隣接する横浜市で2番目に小さい人口12万人の緑豊かな街である。当支部は現在の会員数230名で全国2位であり、ここ数年その地位を保っている。

主な活動は初夏と年末にプロ棋士を招いて行われる段級位認定大会と秋に囲碁ファン感謝デーとして開催の「囲碁フェスタさかえ」であるが、段級位認定大会は既に17回を数え、毎回100名を超す参加者で認定会と同時に行われるプロ棋士の指導碁や大盤解説が好評を博している。

平成28年9月に区内の囲碁関連団体の協力を得て開催された「囲碁フェスタ2016さかえ」では熊耳六段と本部夏生二段を招き、級位者むけの囲碁教室とペア碁大会を開催、150名を超す囲碁ファンが楽しい時間を過ごした。

◆栄区の囲碁は普及活動から

現在栄区には囲碁関連4団体があり「栄区を囲碁王国に！」を合言葉に協調し合い活動している。その成り立ちに触れてみる。

30年前、横浜市に誕生した栄区に、囲碁大会を企画運営する「栄区囲碁連盟」が時を同じくして誕生。区の文化協会に所属し文化活動の一翼を担っている。その後、子供達への囲碁普及に関心を持つ囲碁愛好家が集まり「栄区囲碁普及会」を立ち上げ、囲碁教室を開講また区内16小学校に講師派遣を開始した。この会がその後の囲碁ファン裾野拡大に大きく貢献している。現在区内4か所で8囲碁教

日本棋院支部をつくってみませんか?

日本棋院会員が10名以上
集まりますと支部を設立することが出来ます。

——日本棋院は支部を随時募集しております——

特典その1 プロ棋士の指導が受けられる!!

支部を設立すると無料でプロ棋士を派遣いたします。
その後も棋士派遣規定によりプロ棋士を派遣いたします。

特典その2 免状を[illegible]できる!!

支部を設立すると5名に[illegible]合で3割引申請（六段まで）できます。その他免状規定に[illegible]状を申請できます。

特典その3 普及協力金（旧：助成金）を受けられる!!

支部会員の人数によって会員料に普及協力金が受けられます。

その他、近所にお住まいの方々やご婦人、子どもたちへの囲碁入門教室、体験教室など貴支部様の囲碁活動を日本棋院がサポートいたします。

●資料請求・お問合せはこちら
公益財団法人 日本棋院 普及事業部
03-3288-8725（平日9:30～17:30）

全支部会員数ベスト10（※）

①三重支部	三重県	408名	
②横浜栄支部	神奈川県	230名	
③八戸支部	青森県	196名	
④讃棋支部	香川県	175名	
⑤福島県支部	福島県	166名	
⑥釧路支部	北海道	158名	
⑦石狩支部	北海道	153名	
⑧鶴岡支部	山形県	151名	
⑨廿日市支部	広島県	136名	
⑩北海道支部	北海道	124名	
⑩碁宝支部	栃木県	124名	

2016.12.18現在

碁ワールド会員数ベスト10

①三重支部	三重県	165名	
②八戸支部	青森県	124名	
③讃棋支部	香川県	117名	
④徳島県支部	徳島県	91名	
⑤旭川支部	北海道	80名	
⑥横浜栄支部	神奈川県	79名	
⑦釧路支部	北海道	76名	
⑧福島県支部	福島県	75名	
⑨鶴岡支部	長野県	68名	
⑩新ながの支部	山形県	67名	

2016.12.18現在

※支部所属の賛助会員、碁ワールド会員、囲碁未来会員、後援会員、週刊碁会員、セレクト会員、ジュニア会員、サポート会員、特別賛助会員の合計（個人会員は除く）。

102

碁ワールド掲載記事－2

2017年2月号の記事 103ページ

日本棋院支部と会員のコーナー

室を開講、子供は勿論定年後の年配者、家庭の主婦など150名を超す人たちが囲碁を学んでいる。

◆級位者中心の囲碁の会

やがてこの受講生や教室修了者から「級位者が気楽に碁を打てる場がない」との声が起こり、彼等が中心となり、平成17年級位者中心の会「楽碁会」を立ち上げ、集合対局日の開催を企画した。級位者中心に会員数は210名近いメンバーが所属し囲碁を楽しんでいる。

◆横浜栄支部の誕生

囲碁愛好家が次に求めた「自分の棋力が知りたい」の声に推され、「日本棋院横浜栄支部」が誕生した。プロ棋士に直接指導を受けられることもあり会員数は毎年増加している。

◆成功した栄区方式

（会員増の要因）

全国的に囲碁愛好家の減少が言われる中、栄区では30年間に創り出したこれら団体が役割を分担、協力し合い囲碁ファンを増やしている。

その特徴は

①全てボランティアによる運営
- 4団体とも企画運営全てボランティアで行っている
- 100人を超す囲碁ボランティアが居り、内60名が日本棋院学校指導員の資格を持っている
- 教室修了者に、インストラクターとしての道を造り更なる棋力研鑽の場を設けた

②年間を通し運営されている囲碁教室

③級位者重視の企画運営
- 級位者中心の囲碁集合対局の場がある
- 大会参加に児童の優遇処置を設けている

④多彩な大会企画

個人戦だけでなく、地域交流の団体戦やペア碁、近隣市区から子供達を招待しての大会等

⑤プロ棋士の招聘
- 大盤解説や指導碁会開催
- 入門初級教室の開催
- 段級位取得者に指導碁招待

⑥市や区の行政に頼らず囲碁ファン独自の企画運営を行っている

⑦囲碁情報紙「さかえの石音」の発行やホームページでの情報公開により囲碁愛好者の掘起しをおこなっている

これらのことを上げることができる。

◆私たちは

私たちは、街のどこへ行ってもいつも石音が聞こえる街にしたいと思っている。

栄区が囲碁王国と自負するまでになった原点は、囲碁普及会のインストラクターが多数存在していることにある。その大半は、初段を認定されて卒業した元教室の生徒であり、見返りに初級者の指導に当たっているのである。この循環こそが、栄区の囲碁人口拡大に大きく貢献していると確信している。

（日本棋院横浜栄支部長・佐野嘉男）

◎日本棋院　横浜栄支部
日本棋院横浜栄支部長　佐野嘉男
連絡先（TEL&FAX）
045・892・6269

栄区囲碁連盟
- ○1986年発足（会員数：140名）
- ○区の文化協会所属
- ○年５回の区民囲碁大会運営
- ○県、市大会代表選抜

栄区囲碁普及会
- ○2001年設立（会員数：110名）
- ○囲碁８教室開講（生徒150名余）
- ○小中学校へ講師派遣
- ○ＨＰ開設

囲碁ファン情報紙「さかえの石音」（年３～４回発行）

楽碁会
- ○2005年設立（現会員数：210名）
- ○級位者集合対局日開設
- ○級位者大会開催

日本棋院横浜栄支部
- ○2007年設立（現会員数：230名）
- ○棋院認定「段級位認定会」開設
- ○「囲碁フェスタ」開催

【横浜市栄区 囲碁４団体関連図】平成28年10月現在

囲碁フェスタ2016 さかえペア碁風景

地元新聞の支援に支えられた囲碁普及活動

タウンニュース

囲碁の魅力を次世代に

人物風土記

牧野 博さん

人物風土記

囲碁は世の中で一番面白い

三箇 豊さん

さかえ de 輝くサークル Vol.40

栄区囲碁普及会

囲碁普及活動を通し、栄区文化活動の一翼を担う事を目的として活動中です。囲碁を始めたい人の「入門・初級コース」を3カ所に、初段を目指したい人のための「上達コース」を区内4カ所に開設。小学校のほまっ子や中学校、高校へも囲碁普及会より指導員を派遣し、文化活動の支援を積極的に進めています。興味のある方はご一報ください。

活動日 毎週1回（教室により、水・金・土・日）
活動場所 本郷・上郷・豊田地区センター 本郷中学校（体育館2F）
対象者 入門及び初級者
会員募集 随時・若干名（第17期が4月に開講します）
連絡先 ☎045-894-5447（杉浦）

さかえ区民活動センター「ぷらっと栄」 ☎045-894-9900 開館時間 9:00～20:30（日・祝は～18:00）

横濱タウン新聞

栄区囲碁普及会 囲碁教室 第18期生募集

コース	会場	曜日
入門・初級コース 入門及び11級以下の方	①上郷地区センター	日
	②豊田地区センター	日
	③市立本郷中学校	日
	④本郷地区センター	水
上達コース（10級以上で初段を目指す方）	⑤本郷地区センター	土
	⑥本郷地区センター	日
	⑦上郷地区センター	金
	⑧豊田地区センター	水

本教室は自由対局の囲碁クラブではなく、カリキュラムに沿って進みます。対局マナーについても重視した教室です。気軽にお問い合わせください。

▽期間／4月～翌3月31日（水）
▽講師／栄区囲碁普及会の指導員
▽申込み・問い合わせ／☎045（892）9307 三箇（さんが）※詳細をご案内します。個人宅のため、10時～19時でお願いします。
▽申込締切／3月31日（水）
▽会場／表参照
▽会費／大人・月600円、子ども・月200円 テキスト代別
▽定員／各会場若干名
▽参加費／高校生以下無料・大人500円
▽クラス／19路盤＝A（1～5級）、B（6～10級）、C（11～18級）・13路盤＝D（19～25級）・入門初級教室＝これから囲碁を始めたい人（午前で終了・無料）
▽申込・問合せ／☎045（892）5636（10～19時）
▽申込締切／7月20日（木）※囲碁教室は当日参加も可

◆7月30日（日）

栄こどもとおとなの囲碁大会

栄区囲碁普及会が毎年主催するイベント「栄こどもとおとなの囲碁大会」が7月30日（日）に開催されます。今回は日本棋院よりトッププロ棋士、蔡羅国九段を大会審判長として招きます。級位者だけの囲碁大会です。初心者もご参加下さい。入門・初級教室も開催。

▽日時／7月30日（日） 9時10分受付、9時半開会、16時閉会 ※昼食持参
▽会場／あーすぷらざ 大会議室
▽資格／級位者・初心者・小学生以下保護者同伴

栄区に来られたプロ棋士のコメント

蘇耀国九段

ボランティアの方々の多さにも驚かされましたが、とにかく熱意が半端ではなく、素晴らしい活動です。プロ棋士としても嬉しい限りです。
（TV インタビューに答えて）

吉原由香里六段

昨日は横浜市栄区に行きました。段級位認定会にはスタッフも含めて 150 名くらい参加して賑やか！地元のシニアの方たちが入門から初段を目指す教室をボランティアで行っていて、初段になると指導に回る仕組み、教える人も学ぶ人も生き生きとしていました！
（ツイッターより）

歴代の栄区長、文化協会長のコメント

栄区 星崎雅代区長

地区センターなどでも石音が絶えない囲碁王国を実感するとともに、小学校などでの普及活動にお礼を述べます。
（栄こどもとおとなの囲碁大会の開会挨拶にて）

栄区文化協会 小華和会長

大会に参加される皆さんの熱気に驚きましたが、ボランティアの方々の努力に敬意を表します。園児のお子さんから 80 才を超えるシニア迄広く参加されているとの事、楽しんでください。

【編集後記】

皆様方のご協力を得て、「栄区囲碁普及会創立20周年記念誌」発刊の運びとなりました。

本記念誌発行に際して、横浜市栄区長 冨士田 学様及び日本棋院常務理事 宮崎 龍太郎様には、祝辞を賜わりありがとうございました。また、多くの栄区囲碁普及会の受講生、元受講生、会員及び元会員の方々に寄稿文を寄せていただきありがとうございました。

本記念誌の編集方針の一つとして、今までの囲碁普及活動の色々な場面の写真をできる限り多く使用して原稿を作成することにしました。そのためには、昔の写真が必要になります。「さかえの石音」会報誌の編集に長年携わって来られて、写真ファイルを多く持っておられる元普及会会員の小田武史氏に編集委員として入って頂くことにしました。（この編集作業を機会に再度普及会会員に復帰してもらいました）

昔の栄区囲碁普及会の普及活動の様子を本記念誌に掲載する上で、栄区囲碁普及会のホームページに掲載されている「さかえの石音」1号～38号が非常に役に立ちました。また、編集委員の構成は「さかえの石音」会報誌の編集委員を中心に創立時から会員である方にも加わって頂いて、創立時からの情報を集められるようにしました。記念誌の全体の構成等で日本棋院横浜栄支部10周年記念誌『「囲碁王国」30 年の足跡』も参考にさせていただきました。

編集作業は6月に始まり、12月まで10回以上の編集会議を実施し、50ページを超える原稿をまとめました。更に、350冊の印刷、製本作業をして頂いた編集委員の方々のご努力に感謝いたします。

栄区囲碁普及会の創立時からボランティア精神で貢献されてきた多くの会員の方々の囲碁文化普及の熱意をどこまで伝えることができたか分かりませんが、本記念誌が今後の囲碁普及活動の一助になればと願っています。

編集委員長　三箇　豊

栄区囲碁普及会創立20周年記念誌
2021年10月26日　初版　第1刷発行

発行	栄区囲碁普及会
発行責任者	三箇　豊
	〒247-0022 横浜市栄区庄戸 1-14-17
編集・印刷・製本	栄区囲碁普及会創立20周年記念誌編集委員会
編集委員	委員長 三箇　豊
	委　員 伊藤　正彦
	委　員 小田　武史
	委　員 佐藤　中勇
	委　員 田中　建一
	委　員 道休　和俊
	委　員 牧野　博
	委　員 三浦　武久
	委　員 宮川　誠
	委　員 山中　正巳
	委　員 渡辺　紘　　（五十音順）